

三重県競技力向上対策本部

第 1 3 回本部会議



令和7年6月25日（水）

プラザ洞津 紅葉の間

三重県競技力向上対策本部 第13回本部会議 資料目次

○ 三重県競技力向上対策本部第13回本部会議 式次第	P	3
○ 報 告 事 項		
(報告事項1) 委員及び役員の変更	P	7
(報告事項2) 三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過	P	8
(報告事項3) 第79回国民スポーツ大会冬季大会三重県選手団報告	P	12
(報告事項4) 令和6年度補正予算(専決処分)	P	14
(報告事項5) 三重県競技力向上対策本部第22回及び第23回競技力向上対策委員会概要	P	15
(報告事項6) 三重県競技力向上対策本部第23回競技力向上対策委員会決定事項	P	24
(報告事項7) 令和7年度暫定予算(専決処分)	P	59
○ 審 議 事 項		
(第1号議案) 令和6年度事業報告(案)	P	63
(第2号議案) 令和6年度収支決算(案)	P	66
(第3号議案) 令和7年度事業計画(案)	P	68
(第4号議案) 令和7年度収支予算(案)	P	69
○ 意 見 交 換	P	71
○ そ の 他		
(参考資料) 三重県競技力向上対策本部の競技力向上に係る取組方針	P	75
(参考資料) 第3次三重県スポーツ推進計画	P	76

三重県競技力向上対策本部 第13回本部会議 式次第

令和7年6月25日（水）
プラザ洞津 紅葉の間

1 開 会

2 報 告 事 項

- （報告事項1） 委員及び役員の変更
- （報告事項2） 三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過
- （報告事項3） 第79回国民スポーツ大会冬季大会三重県選手団報告
- （報告事項4） 令和6年度補正予算（専決処分）
- （報告事項5） 三重県競技力向上対策本部第22回及び第23回競技力向上対策委員会概要
- （報告事項6） 三重県競技力向上対策本部第23回競技力向上対策委員会決定事項
- （報告事項7） 令和7年度暫定予算（専決処分）

3 審 議 事 項

- （第1号議案） 令和6年度事業報告（案）
- （第2号議案） 令和6年度収支決算（案）
- （第3号議案） 令和7年度事業計画（案）
- （第4号議案） 令和7年度収支予算（案）

4 意 見 交 換

5 そ の 他

6 閉 会

報 告 事 項

委員及び役員の変更

	選出区分	所属機関・団体・役職名	新	旧
委 員	県議会関係	三重県議会議長	服部 富男	稲垣 昭義
	市町関係	三重県市長会会長	森 智広	鈴木 健一
	教育関係	三重県市町教育長会会長	廣瀬 琢也	中田 雅喜
	学校・スポーツ 団体関係	三重県立学校長会会長	諸岡 伸	早川 巖
	学校・スポーツ 団体関係	三重県小中学校長会会長	松本 幸也	林 康子
監 事	県関係	三重県出納局副局長兼出納総務課長	長尾 和子	神田 和弘

三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過

年月日	内 容
平成 23 年 11 月 15 日	県、県教育委員会、財団法人三重県体育協会の連名により、文部科学省、公益財団法人日本体育協会に開催要望書を提出しました。
平成 24 年 1 月 11 日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成 33 年第 76 回国民体育大会の開催地として内々定されました。
平成 25 年 5 月 29 日	三重県競技力向上対策本部「設立会議」、「第 1 回本部会議」を開催しました。
6 月 3 日	三重県競技力向上対策本部「第 1 回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11 月 19 日	三重県競技力向上対策本部「第 1 回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
12 月 13 日	三重県競技力向上対策本部「第 1 回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
12 月 16 日	三重県競技力向上対策本部「第 1 回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成 26 年 3 月 24 日	三重県競技力向上対策本部「第 2 回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4 月 22 日	三重県競技力向上対策本部「第 2 回本部会議」を開催しました。
10 月 1 日	三重県競技力向上対策本部「第 3 回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11 月 13 日	三重県競技力向上対策本部「第 2 回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11 月 19 日	三重県競技力向上対策本部「第 2 回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11 月 19 日	三重県競技力向上対策本部「第 2 回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成 27 年 3 月 19 日	三重県競技力向上対策本部「第 4 回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4 月 23 日	三重県競技力向上対策本部「第 3 回本部会議」を開催しました。

9月 4日	三重県競技力向上対策本部「第5回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月4日	三重県競技力向上対策本部「第3回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第3回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月25日	三重県競技力向上対策本部「第3回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成28年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第6回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第4回本部会議」を開催しました。
7月20日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内定されました。
9月14日	三重県競技力向上対策本部「第7回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月22日	三重県競技力向上対策本部「第4回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成29年 3月23日	三重県競技力向上対策本部「第8回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第5回本部会議」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第5回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月20日	三重県競技力向上対策本部「第9回競技力向上対策委員会」を開催しました。

平成30年 3月14日	三重県競技力向上対策本部「第10回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月16日	三重県競技力向上対策本部「第6回本部会議」を開催しました。
7月18日	公益財団法人日本スポーツ協会理事会にて、2021年第76回国民体育大会の開催地として正式に決定されました。
10月23日	三重県競技力向上対策本部「第6回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第6回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第6回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第11回競技力向上対策委員会」を開催しました。
平成31年 3月18日	三重県競技力向上対策本部「第12回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月16日	三重県競技力向上対策本部「第7回本部会議」を開催しました。
令和元年 10月28日	三重県競技力向上対策本部「第7回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第7回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月 1日	三重県競技力向上対策本部「第7回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月21日	三重県競技力向上対策本部「第13回競技力向上対策委員会」を開催しました。
令和2年 2月20日	三重県競技力向上対策本部「第14回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月 1日	三重県競技力向上対策本部「第8回本部会議」を開催しました。
令和3年 3月18日	三重県競技力向上対策本部「第15回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月 1日	三重県競技力向上対策本部「第9回本部会議」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第16回競技力向上対策委員会」を開催しました。

令和4年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第17回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月20日	三重県競技力向上対策本部「第10回本部会議」を開催しました。
11月15日	三重県競技力向上対策本部「第18回競技力向上対策委員会」を開催しました。
令和5年 3月20日	三重県競技力向上対策本部「第19回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月28日	三重県競技力向上対策本部「第11回本部会議」を開催しました。
11月27日	三重県競技力向上対策本部「第20回競技力向上対策委員会」を開催しました。
令和6年 3月21日	三重県競技力向上対策本部「第21回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月28日	三重県競技力向上対策本部「第12回本部会議」を開催しました。
12月 3日	三重県競技力向上対策本部「第22回競技力向上対策委員会」を開催しました。
令和7年 3月17日	三重県競技力向上対策本部「第23回競技力向上対策委員会」を開催しました。

第 7 9 回国民スポーツ大会冬季大会 三重県選手団入賞一覧

個人種目

順位	競 技 名	種 別	種 目	氏 名	所 属	得 点
2	スキ (ジャイアントスラローム)	成年女子B		中澤 真緒	(公財)三重県スポーツ協会	7 点
5	スケ (スピード)	成年男子	500m	辻本 一史	(公財)三重県スポーツ協会	4 点
	スケ (スピード)	成年男子	1000m	辻本 一史	(公財)三重県スポーツ協会	4 点
6	スケ (スピード)	成年男子	500m	森本 拓也	(公財)三重県スポーツ協会	3 点

第 7 9 回国民スポーツ大会冬季大会 男女総合成績（天皇杯）順位 27位

競技得点 18.0 点

得点合計（参加点含む） 48.0 点

女子総合成績（皇后杯）順位 36位

競技得点 7.0 点

得点合計（参加点含む） 17.0 点

第79回国民スポーツ大会冬季大会 都道府県別総合成績一覧表

【参考】

番号	都道府県	男女総合成績(天皇杯)											女子総合成績(皇后杯)								
		得点 合計	順 位	スケート			アイスホッケー			スキー			得点 合計	順 位	スケート			スキー			
				競技 得点	参加 得点	合 計	競技 得点	参加 得点	合 計	競技 得点	参加 得点	合 計			競技 得点	参加 得点	合 計	競技 得点	参加 得点	合 計	
1	北海道	404.0	1	182	10	192	40	10	50	152	10	162	152.0	2	88	10	98	44	10	54	
2	青森県	163.5	6	35	10	45	55	10	65	43.5	10	53.5	81.0	4	30	10	40	31	10	41	
3	岩手県	105.0	14	36	10	46		10	10	39	10	49	34.0	19	10	10	20	4	10	14	
4	宮城県	53.0	24	8	10	18	15	10	25	0	10	10	27.0	23	7	10	17	0	10	10	
5	秋田県	122.0	11	4	10	14		10	10	88	10	98	50.0	14			0	40	10	50	
6	山形県	85.5	18	17	10	27		10	10	38.5	10	48.5	36.0	16	11	10	21	5	10	15	
7	福島県	33.0	32	3	10	13		10	10	0	10	10	23.0	26	3	10	13	0	10	10	
8	茨城県	33.0	32		10	10		10	10	3	10	13	23.0	26		10	10	3	10	13	
9	栃木県	53.0	24	11	10	21		10	10	12	10	22	36.0	16	5	10	15	11	10	21	
10	群馬県	196.0	3	138	10	148		10	10	28	10	38	53.0	12	33	10	43	0	10	10	
11	埼玉県	122.0	11	62	10	72	30	10	40	0	10	10	36.0	16	16	10	26	0	10	10	
12	千葉県	51.0	26	21	10	31		10	10	0	10	10	20.0	28		10	10	0	10	10	
13	東京都	175.0	5	92	10	102	50	10	60	3	10	13	64.0	6	41	10	51	3	10	13	
14	神奈川県	124.0	10	53	10	63	35	10	45	6	10	16	56.0	11	36	10	46	0	10	10	
15	山梨県	102.0	15	72	10	82		10	10	0	10	10	63.0	8	43	10	53	0	10	10	
16	新潟県	156.0	8		10	10		10	10	126	10	136	58.0	10		10	10	38	10	48	
17	長野県	377.5	2	180	10	190	30	10	40	137.5	10	147.5	173.0	1	114	10	124	39	10	49	
18	富山県	82.0	20	25	10	35		10	10	27	10	37	47.0	15	25	10	35	2	10	12	
19	石川県	34.0	31		10	10		10	10	4	10	14	20.0	28		10	10	0	10	10	
20	福井県	57.0	22		10	10		10	10	27	10	37	12.0	37			0	2	10	12	
21	静岡県	30.0	34		10	10		10	10	0	10	10	20.0	28		10	10	0	10	10	
22	愛知県	138.0	9	93	10	103	10	10	20	5	10	15	77.0	5	57	10	67	0	10	10	
23	三重県	48.0	27	11	10	21		10	10	7	10	17	17.0	36			0	7	10	17	
24	岐阜県	85.0	19	24	10	34		10	10	31	10	41	32.0	20	12	10	22	0	10	10	
25	滋賀県	163.0	7	72	10	82	20	10	30	41	10	51	64.0	6	26	10	36	18	10	28	
26	京都府	96.0	17	66	10	76		10	10	0	10	10	59.0	9	39	10	49	0	10	10	
27	大阪府	112.0	13	32	10	42	50	10	60	0	10	10	24.0	25	4	10	14	0	10	10	
28	兵庫県	194.0	4	164	10	174		10	10	0	10	10	110.0	3	90	10	100	0	10	10	
29	奈良県	30.0	34		10	10		10	10	0	10	10	10.0	38		10	10	0	0	0	
30	和歌山県	20.0	43					10	10	0	10	10	10.0	38			0	0	10	10	
31	鳥取県	30.0	34		10	10		10	10	0	10	10	20.0	28		10	10	0	10	10	
32	島根県	30.0	34		10	10		10	10	0	10	10	10.0	38			0	0	10	10	
33	岡山県	69.0	21	39	10	49		10	10	0	10	10	32.0	20	12	10	22	0	10	10	
34	広島県	35.0	29		10	10		10	10	5	10	15	25.0	24		10	10	5	10	15	
35	山口県	20.0	43					10	10	0	10	10	10.0	38			0	0	10	10	
36	香川県	57.0	22	12	10	22	15	10	25	0	10	10	32.0	20	12	10	22	0	10	10	
37	徳島県	30.0	34		10	10		10	10	0	10	10	10.0	38			0	0	10	10	
38	愛媛県	47.0	28	17	10	27		10	10	0	10	10	20.0	28		10	10	0	10	10	
39	高知県	20.0	43					10	10	0	10	10	10.0	38			0	0	10	10	
40	福岡県	100.0	16	60	10	70	10	10	20	0	10	10	51.0	13	31	10	41	0	10	10	
41	佐賀県	30.0	34		10	10		10	10	0	10	10	20.0	28		10	10	0	10	10	
42	長崎県	20.0	43					10	10	0	10	10	0.0				0	0	0	0	
43	熊本県	30.0	34		10	10		10	10	0	10	10	20.0	28		10	10	0	10	10	
44	大分県	34.5	30		10	10		10	10	4.5	10	14.5	10.0	38			0	0	10	10	
45	宮崎県	30.0	34		10	10		10	10	0	10	10	10.0	38			0	0	10	10	
46	鹿児島県	30.0	34		10	10		10	10	0	10	10	20.0	28		10	10	0	10	10	
47	沖縄県	20.0	43					10	10	0	10	10	10.0	38			0	0	10	10	
合計		4077		1529	420	1949	360	470	830	828	470	1298	1797		745	350	1095	252	450	702	

令和6年度補正予算(専決処分)

1 収入

(単位:千円)

科目	当初予算額	補正予算額	補正予算の内容	補正後予算額
負担金	310,134	0		310,134
収入合計	310,134	0		310,134

2 支出

(単位:千円)

科目		当初予算額	補正予算額	補正予算の内容	補正後予算額
事業費	チームみえジュニア育成事業	37,257	△ 600	事業費精査による減	36,657
	高等学校運動部強化指定事業	13,154	718	事業費精査による増	13,872
	チームみえスーパージュニア強化指定事業	6,000	△ 300	強化指定選手の減	5,700
	三重県アスリートタレント発掘・育成事業	12,841	300	事業費精査による増	13,141
	トップアスリート応援事業	11,000	△ 1,818	対象選手の減	9,182
	チームみえ国スポ選手強化事業	177,000	1,700	事業費精査による増	178,700
	パラリンピック等選手強化指定事業	8,700			8,700
	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	12,600			12,600
	オリンピック等選手強化指定事業	2,700			2,700
	チームみえトップ指導者養成事業	24,810			24,810
	会議費	4,054			4,054
事務局費		18			18
支出合計		310,134	0		310,134

補正予算額については千円未満切り上げ

三重県競技力向上対策本部 第22回競技力向上対策委員会に係る概要

令和6年12月3日（火）

スポーツガーデン Mie Spo Inn 会議室

1 協議事項

（1）【令和8年度までの競技力向上に係る取組等について】

・パリオリンピックにおいて、我々が指導してきた子どもたちが活躍できたのも県の協力のおかげだと思っている。体操競技として、SAGA国スポで思ったような結果を出せなかったこともあり、来年度への更なる強化として、パリオリンピックの床と跳馬で金メダル獲得に貢献したフィリピン代表監督を三重県に招聘、またインカレ3位の選手を獲得するなど、3000万円以上かけた強化で、成績を出していきたいと考えている。今後、県の予算が減少していく中で、天皇杯の順位維持に向けた県としての対策はあるのか。

→これまでの取組の検証と事業の見直し等を踏まえながら、さらに効率よく効果的に行えるよう様々な対策を講じながら進めていく。

・私どもバスケットボールと男子・女子バレーボールの3チームを強化指定、ご支援をいただき有難いと思っている。（SAGA国スポでは）男子バスケットボール、男子バレーボールで得点を獲得できたので、引き続き女子バレーボールも頑張っていきたいと思っている。

トップアスリート就職支援事業について、三重国体を目標に立ち上げたチームとして競技力をある一定維持できているのはこの制度のおかげ、支援の賜物であると思っている。現在、アスジョブに登録いただいている企業は229社あり、三重県の財産になると思っている。昨今、特に建設、建築、輸送、福祉という業種において求人はあるものの、労働力不足の問題があり、全国のクラブチームのみならずVリーグでも何チームかの解散が見受けられ、雇用状況の急変を感じている。その中で本県には、アスジョブという制度があり、県の担当者が一緒に足を運んでくださるという信頼感は、大学の先生からも好評であると感じている。ただ、我々クラブチームとしては、（配慮いただいている中ではあるが）1時間でも早く仕事をあがらせてもらい、練習に遅刻せずに参加ができる、活動ができるというところに対して、本当にもう少しでもいいので競技に対してご理解いただき、ご支援と応援していただける企業様が増えると有難いと考えている。

・県にご支援いただいている中、結果が伴っていないのが大変申し訳ないと思っている。成年女子の卓球チーム、雇用ではサッカー女子で関わらせてもらっているが、両チームとも今年は得点に至らず申し訳ないと思っている。成年の雇用に関しては、正社員だと条件が厳しく、いろんな制約条件があるので契約社員という形で雇用している。また、競技を終え引退する際に正社員で残る、または地元へ帰るなどの選択ができるようにしている。成年の方が引退後、そのような正社員雇用が多いのかどうなのか知りたい。

→就職支援制度を活用している選手においては、正社員雇用が多く、制度としても正社員での雇用形態を原則としている。引退後の就業継続や退社等については選手によって異なる。

・ 次回の国スポに向けて、三重県として 11 位から 15 位、1,235 点、通過率として 25%を目指すという話であるが、現状まだ足りてないところがいくつかあると思う。今回、説明のあった成年種別の強化について、大きく二つの重点取組を挙げているが、前回と何が違い、今後どう強化しようとしているのかを知りたい。

→基本的に事業の中身や取組については大きな変化はない。足りない部分はあるが、一定の成果を収めていると考えており、競技団体、チーム、選手と県の競技担当とが密に連携しながら、今後も事業の継続を考えている。

・ 女子の陸上競技としては、残念ながら昨年も結果が出せず、今年は新人を補強してなんとか立て直してきた。来年に良い成果を出すとともに指導という形でも協力していきたいと思っている。中高生や一般選手を対象に伊勢で大会を開催し、その中でチームの選手たちが先導するような形で協力や支援をするということを行っている。来年も強化と、小中学生などへの教室を実施し、ファンやランナーを増やすなど、裾野を広げていくような機会をたくさん作っていききたいと考えており、大会だけではなく選手と小中学生や一般の方たちが一緒に練習しながら指導できる場をたくさん設けていききたいと考えている。陸上や野球のグラウンド、体育館やジムなどの施設はあるので、たくさん利用してもらえようしていきたい。

・ 当社も毎年アスジョブで 1～2 名の採用を継続させていただいている。当社は、女子ラグビーチームのメインのサポート会社だが、来年はライフル射撃の選手も 1 人採用させていただく予定となっている。スポーツの社員は、雇用するだけではなく、会社にとってもプラスになることが多く、一体感の醸成や健康経営などの面において、スポーツアスリートの健康管理や体力維持を社員に向けて指導助言してもらえるという面でも活躍してもらっているので、もっとアスリートを採用する企業が増えていけばよい。チーム強化のために県外の選手や指導者を雇用し、彼らが国スポで勝ち、三重県に貢献してくれることはありがたいことだと思っているが、将来を考えると何年かかるかわからないが、やはり地元の選手主体で上位を取りたいという思いとともに、そこに向けての取組も必要だと思っている。ジュニアチームにも力を入れて、地元の底上げを図っていききたい。何よりも指導者が大きな影響力を持つので、よい指導者を養成していく方針には賛成である。

・ 中学生の国スポ参加が限られている中での中体連としての役割や取組として、令和 5 年、令和 6 年とクラブチームの大会参加を認めてから 2 年が経過したが、今後についてはまだ不透明である。部活動の地域移行については、自治体によって状況も異なるが、競技力が高い将来性をもった子供たちをどう支援していくのが重要であると考えている。移行に向けては、指導者不足が一番の問題であり、中体連としてできることを探していく。

・ 少子化に伴って部活動数が減少している中、現在、国の改革推進期間が令和 5 年から 7 年度で地域移行を進めている。三重県においては、自治体によって状況が異なるので、各市町が協議会を立ち上げ検討している段階であるが、子どもたちの活動の場として、大会、練習に参加できている等、いい方向に進んでいると思っている。指導者の確保は課題となっている。県教育委員会保健体育課が今年度中に人材バンクを立ち上げ、各市町の要望にマッチングをしていくという方法で進めており、教員（が地域で部活動を担うことに）に

関しては兼職兼業という方法もありつつ、一方では企業に出向き土日の指導をしていただける方を発掘し、確保していこうと思っている。

・部員数が少なく合同チームなど活動がギリギリの部活動もあり、指導者を確保できても実力を発揮できず、うまく稼働しないのでは。活動の母体となる受け皿が地域移行なのか、部活動なのかは、市の状況を整理しながらこれから探っていく必要があると考えている。

・地域移行については、まとまった回答が国からなく危惧しており、中学校の問題だけではなく、高校にも影響があると思っている。競技力向上に関しては環境整備、お金、指導者が大切であり、県内でも松阪市は環境整備という面で、施設が少なく遅れていると感じているので、環境整備についてもお願いしたい。

・三重国体に向けての強化が現在、財産として残っている。
少年強化や育成が、地元の成年選手と指導者につながって、好循環が生まれると考えている。令和 17 年の三重国スポに向け、少年種別の育成と強化には時間がかかるので、競技団体に対し、どこへ向かっていくのか、令和 8 年以降の目標を早く示し、大きな旗振りをしてほしい。

・11 年後に三重国スポが開催されるにあたり、県のスポーツ関係者のご尽力に敬意を表したい。今後、10 年プランで強化を考える必要がある中、いろんな関係者を巻き込んでプロジェクトを組んでいく必要があるのではと感じている。中止となった 2021 年の三重国体に向けた総括（成果と課題の検証）ができていないのでは。

来年小学 1 年生になる子どもたちが、三重国スポで主戦力になるため、競技団体と連携しながら検討および強化していく必要があると思う。

天皇杯・皇后杯の獲得が目標となると思うが、パリオリンピックに向けて JOC では今回初めて目標設定をメダル獲得数に加え、コンセプト（「一步踏み出す勇気を、共にさらなる高みへ」）を設定し、その結果一体感を築くことが出来たので、コンセプトを設定するのもよいのではと思う。今後しばらくは予算削減になっていくと思うが、強化には指導者の育成、強化の拠点、育成、3 つのシステムが連動する必要がある、中でも指導者養成事業を今後拡充していくことが必須である。また、各競技団体の取組を熟知している県の競技担当が、各競技と密接に連携したなかで様々な取組の提案や調整をしてきてくれたおかげで各競技が結果を出せているという側面があると思うので、競技団体に助言やアドバイスができる県担当者を今後どうケアしていくのかということも重要となってくる。県民にスポーツの価値を伝えるにあたり、国スポ等に出場するトップアスリートによるハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ、何ができているのか何ができるのかを広い意味で検討するなどして、スポーツや選手のすばらしさを県民に還元していく必要がある。

・競技種別での格差として、競技によっては指導者が育成されていないという課題がある。そのため、ボトムアップとしてトップアスリートよりもその競技に関わる人を増やしていく必要がある。指導者に対する対価（報償費）が少ないことも要因の一つと捉えている。ジュニア育成は計画的に進めていく必要があり、モチベーションを上げ三重国スポへ意識をさせていく必要がある。

・長年にわたり多額の予算をかけてやってきて成果もみえているが、一方、成果が出てない競技（団体）もある。何が問題だったかをきちんと整理しないと次に繋がらない。これまでと同じようなやり方で予算や時間をかけてもよい成果は得られないのではないか。競技（団体）を活性化しながら成績を上げていくという動きが見えてこない競技団体があると思うので、そういったところを厳しく、きめ細かに検証するべきだと思っている。

・今後の少年種別への取組方針を示してもらったが、やはり事業化をしないと前に進まない。例えば、企業に指導を依頼する等を事業化し、予算を付けて初めて動き出せることだと思う。何かするのであれば、ぜひとも事業化をして、中身の議論については対策委員会等でできればいいのではないかな。

・部活動の地域移行については、対策本部（委員会）で十分な議論がなされていないのではないかな。スポーツ振興という大きな観点で考えると、子どもたちがスポーツできる環境があり、その中から強い選手が出てきて、その選手たちが大人になっていくという大きな話である。地域移行というだけでなく、スポーツ振興の中で、小・中学校の子どもたちの運動の機会をきちんと事業化してうまくやっていけば、もっと良いものができるのではないかな。

・場所（運動環境）について大変危惧している。近年の猛暑が続く6月から9月の夏季の期間、県は簡単に「運動するな」と言う。そう言いながら「運動実施率を上げる」など、なにか矛盾していると思う。（「運動実施率を上げる」というなら）「運動するな」と言う前に、運動できる環境を作ってあげてほしい。子どもや地域の人たちが活動できるよう、朝や夜に利用できるグラウンドやクーラーのついた体育館を確保したりすることが必要であるのに、それをせずに暑いから「運動するな」というのは、あまりにも乱暴な話だと思う。

・スポーツに関しての課題は、日本のスポーツ文化（力）の低さだと思う。競技専門の人が指導したら1時間3000円～5000円支払うのは当然のこと。スポーツの文化力が身に付ければ部活動の地域移行は、あっという間に解決すると考えている。お金を出さずに（クラブ）指導してもらおうと思うこと自体が今の時代に合っていない。新しい時代に向かっていくということを、これからの10年で創っていくべきではないか。そうすることで（健全者も障がいのある方も）皆と一緒にスポーツし、スポーツ振興に関わっていける形になるのではないかなと思っている。

（２）【パラアスリートの強化について】

・トレーナー含めパラスポーツに携わる人の絶対数が少なく、ボランティアなどのサポートに支えてもらっている。また、選手はトレーナーや指導者を自身で探すなど苦慮している。パラアスリートが強化を図りながらも生計が成り立つ職業や環境が整うとよいと思っている。

三重県競技力向上対策本部 第23回競技力向上対策委員会に係る概要

令和7年3月17日（月）
三重県庁講堂棟 講堂

1 協議事項

(1) 【滋賀国民スポーツ大会について】

・意見なし

(2) 【令和7年度競技力向上関連事業について】

・意見なし

(3) 【ジュニア・少年選手に対する中長期的な取組について】

① 「人口減少のなか、選手発掘の取組に対する支援のあり方」

・限られた資金をどのように割り振っていくかが非常に重要であると思っている。限りがある予算を薄く広く配分するというのは、競技力の向上になかなか繋がりにくいと感じている。成年選手については、就職先が非常に重要であり、県としても就職支援の取組を継続いただいているが、今後更に、選手がスポーツに専念できる、取り組みやすい環境整備を民間企業様に理解いただくとともに働きかけていくことが必要ではないかと考えている。また、私どもには新たに加えるバスケットボールを含め、サッカー、バレーボール、ハンドボールとアンダーカテゴリーがある。ただし、事業としてうまくいっている競技もあれば、赤字の中、我々が補填をして継続している競技があるのが現状である。中学校運動部活動の地域連携・地域移行が進んでいけば、公立学校の体育館や武道場等の施設を使用しない時間に、競技団体以外の我々や他の競技のスクールに開放いただければ、更に有効活用できるのではないかと考えている。企業である私どもが取り組むとなると、営利が絡んでくるため、公共施設の利用に関しては、ハードルが高い。これらの課題については、現有施設の有効活用により、解決していけると思う。

・市の施設としては、スポーツ施設も含めて多く保有している。そういった中、競技力向上や、プロスポーツに関わっての利用に関しては、市民利用とのバランスが課題となっている。特に、国スポに向けて作った施設については、高規格な施設もあるため、効率的に稼働している反面、自由に使えない状況もある。ジュニアの育成については、三重県内の廃校等の使用していない、または平日夜間や土日に空きのある体育館等を、行政からの費用補助もいただく中で、地元根差したジュニアスクールやジュニアユースチームに貸し出しをいただくことができれば、より活発に有効活用できるのではと考えている。

本市としても市内小中学校の運動施設を学校開放している。現在は、各地区の学校毎に学校開放運営委員会を設け、この委員会に加入した開放地区の居住者、および団体が利用している状況である。ジュニアスクールやジュニアチーム等の利用に関しては、ご意見をいただきながら検討していきたいと思う。

・県立学校でも、体育館等の開放は行っている。廃校の施設利用に関しては、大きな負担となる光熱水費の基本料金等が、まず課題になると考えられる。不定期的な利用に対しての基本料金負担は、住民の方々の理解を得るのが難しく、また、営利利用に関わる解放についても、出来る、出来ないという縛りもあるので、今後検討していく必要があると思う。

②「中学校運動部活動の地域連携・地域移行における競技力向上対策のあり方」

・全国的には、休日の部活動を地域に展開していくという流れになってきていると思う。本市においても、7つの総合型地域スポーツクラブを受け皿とする方向で検討を進めている。しかしながら、部活動の受け皿となると、一定のルールが伴ってくるため、総合型ですべてカバーするのは難しく、競技種目によっては指導者の確保が進んでいないという状況もある。現在、市内には16種目あるクラブを、総合型地域スポーツクラブと地域に根ざしたスポーツクラブという拠点として、地域毎に様々な競技種目を選択できるよう、来年度に部活動の地域展開に特化した執務を教育委員会に設け、市のスポーツ協会加盟団体やその他関係団体の方々にも協力いただきながら進めていこうと考えている。令和8年の夏の大会以降は、休日すべて地域展開していく予定である。部活動の地域連携・地域移行については、マイナス面もあるが、拠点型であれば今まで部活動にはなかった競技を選択できるといったプラス面もあるので、プラス面を活かしていけるよう、中長期での課題解決を含め取り組んでいく。

・県教育委員会では、先月、ウェブシステムを活用した「みえ地域クラブ活動人材バンク」を開設した。現在、約90人の応募があるものの、クラブ活動と適正なマッチングができるかが今後の課題となってくると考えている。また、応募には、文化系の方、高齢者の方も含まれているので、スポーツの指導者を更に確保するために、来年度以降は、広報の力も借りながら取り組もうと考えている。

【ジュニア・少年選手に対する中長期的な取組】全体について

・地域連携・地域移行に向けて、活動場所や指導者の確保が課題という意見があるが、これまで中学校の先生が業務として部活動に関わっていたのが、今後は部活動の指導をしなくても良い、指導に関わらないという人が増えている。ハンドボールは、令和8年以降の全国大会がなくなるため、これに代わって代替大会を検討する等、日本スポーツ協会を中心に模索しているのが現状。今までは、中学校から高校までのピラミッド型で行ってきたが、これからは円柱のような状態で育成していくしかないのかと思っている。現時点では、やはり、人と場所が課題となっている。場所については他の委員からも発言があったように、費用がかかれば継続できない。塾のように月謝を徴収して活動したとしても、多くが施設利用料に回ってしまうため、指導者に対して支払えるだけの財源が確保できない。これらの問題を解決するためには、場所の無償提供とまではいかないが、市や県から支援が必要だと思っている。また、学校の体育館を一般開放してくれたとしても、同じ地域にハンドボール、バレーボール、バスケット等の団体が複数あれば、場所の取り合いとなり、使いづらいような状況もあるなど、問題は山積みである。

・企業の方とは少し異なるが、本校は体育館に冷暖房がついているため、夏季の中体連等の大会で使用していただいている。佐賀市においては、令和8年度までに各中学校の大会で冷房を使用することが決まったようである。個人的には、中学校のクラブ活動は非常に教育性が高いと思っており、それが果たして地域移行となった場合、管理体制等において様々な問題が出てくるのではないかと考えている。部活動をしたくない先生が増えているのは間違いないが、指導をしたい先生もいるので、そのような中学校や高校の先生方を活用していけるようにしなければ地域移行はできない、また、人材バンクを作って指導者を集めたら始められるというものでもないと考えている。

・山梨県では、人材バンクを通して一年間で集まった800人のうち、マッチングできたのが22名(9件)であったことから、人材バンクで人を集めたとしても、人材の都市部への集中や、活動(指導)時間の問題等、すべての地域に行き渡るだけの指導者の確保ができなかったという報告がある。しかし、この取組には一定の意味がある。ジュニアと少年選手に対する中長期的な取組については、二つの観点があると考えている。一つは10年後にくる三重国スポ。ここをどう戦略的に、中長期的な取組をするのかということを考える必要があると考えている。10年後、少年の部で活躍してくれる子どもは、小学生低学年であり、その子たちに対して、スポーツと向き合う環境・仕組みをどのように作ってあげるかということ。今すでにいくつかの競技で体験会をやっていただいているが、今後はこれまでに以上に積極的に進めていく必要があると感じている。もう一つ、部活動の地域展開に関して、現在スポーツ庁で、「持続可能な国際競技力向上プラン」の検討会を立ち上げ、先日、プランの改定案を取りまとめたところである。この検討会は、夏のオリンピックが終わった後、JOC、JPC、JSP0の関係者が集まって、国が掲げる国際競技力向上の施策を検討する4年に1度の会議である。その施策の4つの柱には、アスリートの強化活動の基盤の確立強化、タレント発掘育成におけるNFと地域との連携強化、NFによる地域と一体となった発掘育成というものが入っている。すなわち中央競技団体と県の競技団体、市の競技団体が連携しながら、選手の発掘、育成をしっかりと取り組んでほしいという国としての考えが入っている。三重県が今注力しようとしている考え方は、まさに国の考え方と同じであると感じており、それがどのように展開するは、先ほどの拠点型の例も含め、今後は楽しみであると感じている。拠点型の場合は、各競技団体と更に連携しながら、指導者や指導プログラムの展開を図る必要がある。いずれにせよ、競技力向上に向けてではあるが、部活動の教育的な意味の継承と発展というのは一つの地域展開の課題とされているので、この課題も競技力向上とともに一緒にセットにしながら、環境整備をして行く必要があるのではと思う。

・教育委員会が運用を始めた人材バンクを拝見している。現在、桑名市では、バレーボール女子とバスケットボール男女において求人がありと伺っているが、平日は夕方早い時間帯での1、2時間の活動と合わせて土日の活動となっており、普通に働いてる方々にはなかなか難しい条件であると考えている。指導者不足においては、私どもも同様に抱えている問題で、アスジョブみえでお世話になった選手が引退後も三重県に指導者として残り、還元してくれればという気持ちを持っている。私どものバレーボール競技の指導者資格の取得費用は、全額我々が補填をして育成をしており、今年も2名受ける予定である。中には、中学生の指導に関わりたいという選手もいるが、チームとしては、現役選手のうちに

引退を見据えて指導者資格を取得し、指導現場に入っていく準備を支援するという活動をしつつ、人材バンクへの登録も推奨している。その他、企業のご理解のもと、副業禁止規定を解いていただき、15 時までの勤務、それ以降は中学校でバレーボールの指導をし、指導料をいただけること。このような活動を認めていただければ、競技生活と指導者生活を兼務できると考えている。現役時代は、そのような時間がなかなか確保できないが、選手が引退後を考えて時に、このような関わり方で三重県に残って活動してもらえるとこのを、我々としては希望している。一つのチームを指導して行くには指導者一人いればいいという問題ではなくて、同じ時間に複数の指導者が必要である。中学校小学校の体育館の利用について、私ども企業チームにとっては、「営利」に関するハードルがあるが、その理解と改善をいただければ、もう少し有効に活動して指導者を確保できる環境を整えられると考えている。企業の理解を得ることはもちろん、これらの課題を解決するには行政の支援も必要であると考えている。

- ・私どもジュニア育成に関しては、半年以上前から、本教室に所属する 4000 人の現小学 1 年生、幼稚園の年長の年代をピックアップして、三重国スポに向けて発掘を始めている。さらに、今年の夏から冬にかけて、10 年かけての強化をスタートする予定をしているので、それなりの成果を得られると考えている。

- ・今後の進め方においては、大変根深い問題があり、スポーツに関わる県の関係者や、各競技団体、企業の方々には、今後の進め方について大変ご苦勞されてのではないかと感じている。今後については、この場で解決できるものとそうでないものはあるが、2035 年の三重国スポで好成績を残すという大きな命題に向けて、人材の発掘と育成環境、ターゲット世代の子どもたちを育成する指導者等の課題を具体的に明確化にする必要があると思う。また、課題解決については、リソースの集中投下等、今後に向けた三重県のスポーツ戦略をさらに上位の方でしっかり検討していかなければ、抜本的な改革、改善ができないと考える。従来 of その問題解決型の進めから、課題達成型の進めにしていくべきではなかろうかと思う。本気で 2035 年の三重国スポを成功させ、良い結果を出させるという意味では、県をまきこんだ新しい育成モデルを構築していく必要がある。

【その他】

- ・本来、連携や協働というのは、県や市町、競技団体や学校が情報を共有しながら、役割分担を整理し、具体的な取組をするということであるが、現時点では役割やゴールを共有できておらず、まとまっていないように感じている。特に、部活の地域移行、地域展開については、各関係機関がそれぞれにお見合いしている雰囲気もあるようにも感じる。スポーツ庁の有識者会議では、都道府県がリーダーシップを発揮して、市町に対して必要なシェアをきめ細かく行うことが重要であると、中間報告にも記載されているので、グランドデザインをしっかりと描いた上で、各関係者が連携・協働しながら進めていくことが望ましいと考えている。

- ・競技団体においては、SAGA 国スポ終了後から次年度に向けての計画をしっかりと立ていただいている中、来年度の強化費の大幅な減額について、どの程度周知できているの

か。団体関係者は、別に仕事を持ちながらボランティアで取り組んでいただいているという認識のもと、彼等への丁寧な対応をお願いしたいと思っている。

地域移行、地域展開については、三重のスポーツの10年後の姿、あるいは15年後の姿というのをしっかりと頭に描いてやる。他の委員と同様に、活動場所や指導者、あるいはアスリートのセカンドキャリアの問題等、すべて包含してグランドデザインを描くことが重要であると思う。単に部活動の地域展開ということだけでなく、県スポーツ推進局を中心に、教育委員会や競技団体、企業クラブチームがまとまって課題等の共有をしつつ議論し合っていくことが必要であり、それができて初めて連携・協働と言えると考えている。また、スポーツ文化の大きな転換期、文化を変えようとするこの転換期に、どこよりも早く、どこよりも一致団結して取り組み、新たな仕組みづくりを進めていただきたい。

令和 7 年度競技力向上対策等関連事業		
	事業名	対象
①	チームみえジュニア育成事業	ジュニア・少年選手
②	ジュニアクラブ・運動部強化指定事業	
③	高等学校運動部強化指定事業	
④	チームみえスーパージュニア強化指定事業	
⑤	三重県アスリートタレント発掘・育成事業 (スーパー☆プロジェクト)	
⑥	トップアスリート応援事業	
⑦	チームみえ国スポ選手強化事業	少年・成年 選手共通
⑧	女性アスリートサポート事業	
⑨	オリンピック等選手強化指定事業	
⑩	パラリンピック等選手強化指定事業	
⑪	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	成年選手
⑫	トップアスリート就職支援事業	
⑬	スポーツ指導員配置事業	指導者
⑭	チームみえトップ指導者養成事業	
⑮	競技用具等整備事業	環境整備

チームみえジュニア育成事業 実施方針

令和 7 年度当初予算【30,000 千円】

1 目的

地域で活動し、全国大会等で活躍が期待できる子どもたちを「チームみえジュニア」として指定し、その活動を支援するとともに、競技団体等が実施する新たなジュニア選手の発掘を支援するためのスポーツ体験会等の活動を支援することにより、スポーツ人口の拡大や地域の活性化につなげることを目的とする。

2 対象

公益財団法人三重県スポーツ協会加盟の国民スポーツ大会の正式競技である競技団体。

3 実施内容

(1) 指定方法

三重県競技力向上対策本部は、別途定める推薦要領により、競技団体の推薦を受けて、地域で活躍し、将来、全国大会等での活躍が期待できる県内の小中学校に在籍する選手を「チームみえジュニア」として指定する。

(2) 指定期間

令和 7 年 4 月から令和 8 年 3 月までの単年度指定とする。

(3) 活動経費等

- ① 各競技団体に取り組むチームみえジュニアの活動を支援するため、必要な経費（活動費）を配分する。
- ② 活動費の支援は予算の範囲内で行うものとし、その配分額は、各競技団体の計画等に応じて決定する。
- ③ 支援の対象となる経費は、全国大会での活躍を目的とした活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費とする。

(4) 各競技団体が実施するスポーツ体験会のチラシを作成し、県内小中学校へ配布する。

4 年間計画

- | | |
|--------|--------------------|
| 4 月 | 活動費の配分額決定 |
| 5 月 | チームみえジュニアの決定、指定証交付 |
| 随時 | 活動支援 |
| 7、12 月 | スポーツ体験会のチラシ配布 |
| 8～3 月 | 各競技団体がスポーツ体験会を実施 |

ジュニアクラブ・運動部強化指定事業 実施方針

令和 7 年度当初予算【4, 500 千円】

1 目的

全国大会や国際大会での活躍をめざし、地域で活動するジュニア選手の育成にあたり拠点となるジュニアクラブ・運動部（以下「ジュニアクラブ等」という。）を指定し、その活動を支援することにより、スポーツ人口の拡大や地域の活性化につなげることを目的とする。

2 対象

国民スポーツ大会の正式競技であり、全国大会や国際大会への出場と活躍につながる実績等を有し、ジュニア選手の育成の拠点となることが見込まれるジュニアクラブ等。

3 実施内容

（1）指定方法

三重県競技力向上対策本部は、別途定める選考要領により、必要に応じて競技団体と協議のうえ、指定するジュニアクラブ等を決定する。

（2）指定期間

令和 7 年 4 月から令和 8 年 3 月までの単年度指定とする。

（3）活動費等

- ① 指定したジュニアクラブ等への活動費の支援は、予算の範囲内で行うものとする。
- ② 支援の対象となる経費は、全国大会での活躍を目的とした活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費とする。

4 年間計画

4 月 ジュニアクラブ等の指定

随時 活動支援

ジュニアクラブ・運動部強化指定事業 選考要領

1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「ジュニアクラブ・運動部強化指定事業」に係る指定ジュニアクラブ・運動部を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

2 選考

選考については以下のとおりとする。

なお、選考にあたっては必要に応じて、競技団体と協議の上、決定するものとする。

(1) 選考方法

三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会が行うものとする。

(2) 選考基準

今後も、将来の少年種別を担う選手の育成・強化の拠点となることが見込まれるジュニアクラブ・運動部で次の基準のすべてを満たすもの。

- ① 国民スポーツ大会の正式競技で、全国大会（※1）での活躍を目指し、ジュニア選手の育成・強化を担うジュニアクラブ・運動部
- ② 国民スポーツ大会（ブロック大会含）の少年種別において、三重県選手としての出場実績（※2）を有するジュニアクラブ・運動部
- ③ 全国大会（※1）での実績（※3）を有するジュニアクラブ・運動部

※1 全国大会

- ア 全国中学校体育大会
- イ ジュニアオリンピック
- ウ ア・イと同等のレベルと認められる大会

※2 出場実績

過去3年間における国民スポーツ大会への出場実績

※3 全国大会での実績

- ア 令和5年度～令和6年度の全国大会（※1）で、個人競技、団体競技を問わず8位以上の入賞実績を有する。
- イ この他、特に顕著な実績を収めた場合は、三重県競技力向上対策本部が別途指定する。

令和 7 年度強化指定ジュニアクラブ・運動部

	ジュニアクラブ・運動部名	競技名（種目名）
1	三重ダイビングクラブ	水泳（飛込）
2	みえ A. S. C	水泳（A S）
3	リヴィエール三重	水泳（水球）
4	O c e a n B e a r ' s	
5	三重グリーンテニスクラブ	テニス
6	相好体操クラブ	体操（競技）
7	四日市メリノール学院中学校男子バスケットボール部	バスケットボール
8	四日市メリノール学院中学校女子バスケットボール部	
9	I N A B E レスリングアカデミー	レスリング
10	みえウエイトリフティングジュニアクラブ	ウエイトリフティング
11	松生 T T C	卓球
12	2 1 クラブ	
13	K O - W A L L 三重	スポーツクライミング
14	S T A R W A L L	
15	鈴鹿ジュニアボウリングクラブ	ボウリング
16	ヴィアティン三重ハンドボールクラブ（男子）	ハンドボール
17	ヴィアティン三重ハンドボールクラブ（女子）	ハンドボール
18	三重クラブ	相撲

18 団体

高等学校運動部強化指定事業 実施方針

令和 7 年度当初予算【1 3, 1 5 4 千円】

1 目的

全国大会や国際大会での活躍をめざし、地域で活動する高校生選手の育成にあたり、その拠点となる高等学校運動部を指定し、その活動を支援することにより、スポーツ人口の拡大や地域の活性化につなげることを目的とする。

2 対象

次に該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民スポーツ大会（以下「国スポ」とする。）の正式競技であり、三重県高等学校体育連盟（以下「県高体連」とする。）に加盟する競技専門部に所属する高等学校運動部。
- (2) 国スポの正式競技であり、公益財団法人三重県スポーツ協会に加盟する競技団体（以下「県競技団体」とする。）に所属する高等学校運動部。

3 実施内容

(1) 指定期間

- ① 原則、令和 7 年 4 月から令和 10 年 3 月までの継続する 3 年間とする。
- ② 活動実績等をふまえ、上記①の指定期間の最終年度に、次期指定にかかる見直しを行うものとする。
- ③ なお、指定期間内であっても、三重県競技力向上対策本部（以下「対策本部」とする。）が必要と認めた場合は、指定する高等学校運動部の追加、または指定の取り消しを行うことがある。

(2) 指定方法

対策本部は、県高体連（県高体連に競技専門部がない競技は、県競技団体）から推薦を受けた高等学校運動部を候補（以下「指定候補」とする。）とし、三重県教育委員会と協議のうえ、次の①から③により指定する。

① 指定にあたっては、別途定める推薦要領に基づき、指定候補に係る活動の状況、国スポの本県代表チームでの位置づけ、全国大会での入賞見込みなどを考慮のうえ判断する。

なお、指定候補であっても、活動状況や各種大会における実績等から、この方針の目的に合致しないと認められる場合は、指定しないことがある。

② 上記①の指定候補以外の高等学校運動部でも、この方針の目的に合致すると認められる場合は、県高体連及び県競技団体等と協議のうえ、指定することができる。

③ 活動費の配分は、対策本部において強化指定運動部を指定決定した後、各運動部の活動状況、令和7年の全国大会における有力選手の状況等に係る調査結果をふまえ、令和7年4月に決定するものとする。

(3) 対象経費等

① 強化指定運動部への支援は、予算の範囲内で行うものとする。

② 支援の対象となる経費は、全国大会等での活躍を目的とした活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費とする。

4 年間計画

4月 指定運動部の決定

4月～5月 指定証交付式

随時 活動支援

高等学校運動部強化指定事業 推薦要領

1 対象

次に該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民スポーツ大会（以下「国スポ」とする。）の正式競技であり、三重県高等学校体育連盟（以下「県高体連」とする。）に加盟する競技専門部に所属する高等学校運動部。
- (2) 国スポの正式競技であり、公益財団法人三重県スポーツ協会に加盟する競技団体（以下「県競技団体」とする。）に所属する高等学校運動部。

2 推薦基準

- (1) 全国大会において活躍するトップアスリートの育成に向けて、国スポで三重県代表チームの強化の中心となることが期待できる高等学校運動部であること。
- (2) 各競技専門部において指定する上限数は別表のとおりとする。

3 推薦方法

- (1) 県高体連の各競技専門部は、推薦基準に基づき、県競技団体と十分協議のうえ、高等学校運動部を県高体連に推薦する。
- (2) 県高体連は、各競技専門部の推薦を取りまとめ、三重県競技力向上対策本部に推薦する。
- (3) 県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体が推薦基準に基づき、対策本部に推薦する。
- (4) 推薦する高等学校運動部は、実態として男女別々に活動している場合は男子・女子を区分し、同じ高等学校で男子、女子ともに推薦基準を満たし、かつ、男女合同で活動している運動部については、男女を区別することなく、ひとつの運動部として推薦することができる。

【別表】 令和7年度強化指定運動部 各競技別推薦数

	競技名	強化指定運動部(枠数)	
		男子	女子
1	陸上競技	5	
2	水泳(競泳)	1	
	水泳(飛込)	—	—
	水泳(水球)	1	
	水泳(A S)	—	—
3	サッカー	1	1
4	テニス	1	1
5	ローイング	1	1
6	ホッケー	1	1
7	ボクシング	1	
8	バレーボール	1	1
9	体操(競技)	1	1
	体操(新体操)	1	—
10	バスケットボール	1	1
11	レスリング	2	
12	セーリング	1	
13	ウエイトリフティング	3	
14	ハンドボール	1	1
15	自転車	1	
16	ソフトテニス	1	1
17	卓球	1	1
18	相撲	1	—
19	馬術	1	
20	フェンシング	1	1
21	柔道	1	1
22	ソフトボール	1	1
23	バドミントン	1	1
24	弓道	1	1
25	ライフル射撃	1	
26	剣道	1	1
27	ラグビーフットボール	1	1
28	スポーツクライミング	—	—
29	カヌー	1	
30	アーチェリー	1	
31	空手道	1	1
32	銃剣道	1	
33	クレール射撃	—	—
34	なぎなた	—	1
35	ボウリング	—	—
36	ゴルフ	1	
37	スケート	—	—
38	アイスホッケー	—	—
39	スキー	—	—
40	軟式野球	—	—
41	硬式野球	—	—

計 令和7年度60部

60

令和 7 年度高等学校強化指定運動部

	競技名	強化指定運動部	
		男子	女子
1	陸上競技	稲生高等学校	
		近畿大学工業高等専門学校	松阪商業高等学校
		皇學館高等学校	宇治山田商業高等学校
2	水泳（競泳）	尾鷲高等学校	
	水泳（飛込）	—	—
	水泳（水球）	四日市中央工業高等学校	—
	水泳（AS）	—	—
3	サッカー	四日市中央工業高等学校	三重高等学校
4	テニス	四日市工業高等学校	四日市商業高等学校
5	ローイング	相可高等学校	津商業高等学校
6	ホッケー	名張青峰高等学校	名張青峰高等学校
7	ボクシング	久居高等学校	
8	バレーボール	松阪工業高等学校	津商業高等学校
9	体操（競技）	暁高等学校	
	体操（新体操）	高田高等学校	—
10	バスケットボール	—	四日市メリノール学院高等学校
11	レスリング	いなべ総合学園高等学校	
		朝明高等学校	—
12	セーリング	津工業高等学校	
13	ウェイトリフティング	四日市工業高等学校	—
		四日市中央工業高等学校	—
		亀山高等学校	
14	ハンドボール	四日市工業高等学校	四日市商業高等学校
15	自転車	朝明高等学校	
16	ソフトテニス	三重高等学校	三重高等学校
17	卓球	白子高等学校	白子高等学校
18	相撲	宇治山田商業高等学校	—
19	馬術	高田高等学校	
20	フェンシング	海星高等学校	津東高等学校
21	柔道	名張高等学校	四日市商業高等学校
22	ソフトボール	四日市工業高等学校	津商業高等学校
23	バドミントン	皇學館高等学校	皇學館高等学校
24	弓道	津工業高等学校	菰野高等学校
25	ライフル射撃	久居高等学校	
26	剣道	三重高等学校	鈴鹿高等学校
27	ラグビーフットボール	朝明高等学校	四日市メリノール学院高等学校
28	スポーツクライミング	—	—
29	カヌー	桑名西高等学校	
30	アーチェリー	四日市四郷高等学校	
31	空手道	川越高等学校	
32	銃剣道	皇學館高等学校	—
33	クレール射撃	—	—
34	なぎなた	—	稲生高等学校
35	ボウリング	—	—
36	ゴルフ	津田学園高等学校	
37	スケート	—	—
38	アイスホッケー	—	—
39	スキー	—	—
40	軟式野球	—	—
41	硬式野球	—	—

32校57部

チームみえスーパージュニア強化指定事業 実施方針

令和 7 年度当初予算【6,000 千円】

1 目的

地域での活動からステップアップし、よりレベルの高い全国大会や国際大会等で活躍する中・高校生選手を指定し、その活動を支援することにより、地域全体での応援や、子どもたちのロールモデルとなることを促し、スポーツ人口の拡大や地域に活性化につなげることを目的とする。

2 対象

国民スポーツ大会（以下「国スポ」という。）やオリンピックの正式競技で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる県内の中学・高等学校に在籍する選手。

3 実施内容

（1）指定方法

三重県競技力向上対策本部は、別途定める推薦要領により、競技団体の推薦を受けて、将来、国スポやオリンピック等の大規模な大会で活躍が期待できる県内の中学・高等学校に在籍する選手を「チームみえスーパージュニア」として指定する。

（2）指定期間

指定日から事業実施年度 3 月までの単年度指定とする。

（3）活動費等

- ① 指定した選手への支援は、予算の範囲内で行うものとする。
- ② 支援の対象となる経費は、全国・国際スポーツ大会等での活躍を目的とした活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費とする。
- ③ なお、支援の額が予算を超える場合は、三重県競技力向上対策本部事務局が別途協議のうえ決定する。

4 年間計画

- 6 月 第 1 次指定選手の推薦・選定・決定
12 月 第 2 次指定選手の推薦・選定・決定

チームみえスーパージュニア強化指定事業 推薦要領

1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部（以下「対策本部」とする。）が「チームみえスーパージュニア強化指定事業」に係る指定選手の推薦募集をするため、必要な事項を定めるものとする。

2 推薦

推薦は、対策本部が推薦要領に基づき、各競技団体等に募集を行うものとする。

ただし、原則、次年度以降も競技を継続する選手を対象とする。

(1) 対象

国民スポーツ大会（以下「国スポ」とする。）やオリンピックの正式競技で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる、県内の中学・高等学校に在籍する選手。

(2) 推薦基準

全国・国際スポーツ大会で優秀な成績を収め、今後も同様の大会において活躍が期待でき、次の基準のいずれかを満たす選手。

ただし、他の強化指定事業と重複しない選手とする。

- ① 【団体種目】事業実施前年度または事業実施年度に、日本代表選手として中央競技団体から選抜され国際大会※¹に出場した、もしくは出場が内定している選手。
- ② 【個人種目】事業実施前年度または事業実施年度の全国大会※²において、優勝を収めた、もしくは世界大会※³において、8位以内の成績を収めた選手。
- ③ この他、特に顕著な実績を収めた選手。

※1 国際大会

- ア： オリンピック、アジア大会、世界選手権、アジア選手権
- イ： ユース五輪、世界ジュニア・ユース大会、アジアジュニア・ユース大会
- ウ： 中央競技団体が代表を選抜するワールドツアー等
- エ： ア・イ・ウと同じレベルと認められる大会

※2 全国大会

- ア： 国スポ、全日本選手権
- イ： 全国中学校体育大会、ジュニアオリンピック
- ウ： 全国高等学校総合体育大会、全国高等学校選抜選手権大会
- エ： ア・イ・ウと同じレベルと認められる大会

※3 世界大会

- ア： 世界選手権
- イ： 世界ジュニア・ユース大会
- ウ： ア・イと同じレベルと認められる大会

(3) 推薦方法

- ① 各競技団体等は、「(2) 推薦基準」を満たした選手を三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。
- ② 県内に競技団体がないオリンピック正式種目は、上記「(2) 推薦基準」を満たした選手を、所属する団体（クラブチーム）等が、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。

令和7年度「チームみえスーパージュニア」指定選手一覧

No	競技名	選手名	所属	学年
1	陸上	<small>きたむら かな</small> 北村 環奈	名張市立桔梗が丘中学校	3
2	陸上	<small>なかがわ しょうた</small> 中川 翔太	近畿大学工業高等専門学校	1
3	陸上	<small>はやし なつめ</small> 林 捺愛	県立宇治山田商業高等学校	1
4	水泳(競泳)	<small>いちお あおい</small> 一尾 彩央依	鈴鹿市立千代崎中学校	2
5	水泳(競泳)	<small>おくた まゆ</small> 奥田 真由	県立神戸高等学校	1
6	水泳(飛込)	<small>いさか かなで</small> 伊坂 奏音	鈴鹿享栄学園鈴鹿高等学校	3
7	水泳(アーティスティックスイミング)	<small>つばい れ みか</small> 坪井 麗美伽	セントヨゼフ女子学園高等学校	3
8	サッカー	<small>さめしま あつき</small> 鮫島 充輝	津市立久居東中学校	3
9	体操	<small>むねた りのん</small> 棟田 琳音	暁学園暁高等学校	1
10	新体操	<small>やまもと きょうしろう</small> 山本 響士朗	高田学苑高田高等学校	3
11	新体操	<small>なかざわ りく</small> 中澤 陸	高田学苑高田高等学校	1
12	レスリング	<small>こづか なな</small> 小塚 菜々	県立いなべ総合学園高等学校	2
13	レスリング	<small>なかにし あん</small> 中西 杏	県立いなべ総合学園高等学校	2
14	レスリング	<small>ひらた もも み</small> 平田 萌々美	津市立白山中学校	2
15	レスリング	<small>はせがわ れん</small> 長谷川 蓮	四日市市立山手中学校	3
16	レスリング	<small>ひらい てっしょう</small> 平井 鉄清	鳥羽市立鳥羽東中学校	3
17	レスリング	<small>はぎの たかひろ</small> 萩野 貴大	いなべ市立大安中学校	3
18	セーリング	<small>おかだ みひろ</small> 岡田 海洋	県立津工業高等学校	3
19	セーリング	<small>わたなべ はると</small> 渡邊 陽斗	県立津工業高等学校	3
20	ウェイトリフティング	<small>たじま そう</small> 田島 宗	県立四日市中央工業高等学校	3
21	ソフトテニス	<small>たけうち けいご</small> 竹内 慶悟	三重高等学校	3
22	ソフトテニス	<small>みなみ りゅうのすけ</small> 南 龍之介	三重高等学校	3
23	ソフトテニス	<small>おきた あお</small> 起田 亜旺	三重高等学校	1
24	ラグビーフットボール	<small>かわち ひ より</small> 河内 陽愛	四日市メリノール学院高等学校	3
25	スポーツクライミング	<small>かしわ りゅうや</small> 柏 龍弥	県立久居農林高等学校	2
26	スポーツクライミング	<small>さいき たけ と</small> 齋木 猛斗	四日市市立中部中学校	3

三重県アスリートタレント発掘・育成事業 実施方針
(M I Eスーパー☆プロジェクト)

令和 7 年度当初予算【1 2, 8 4 1 千円】

1 目的

優れた資質を有する小中学生を発掘し、様々なプログラムを通じて育成することで、国民スポーツ大会をはじめとした国内大会やオリンピック、ワールドカップ等の国際大会において活躍することができるアスリートの輩出を目的とする。

また、トップアスリートに必要な資質である高い意識や行動力を培うことで、社会生活の様々な場面でリーダーとして活躍できる人材として育成を図ることを目的とする。

2 対象（競技）

ラグビーフットボール競技（男女）、自転車競技（男女）の 2 競技。

3 実施内容

- (1) 三重県競技力向上対策本部が県関係者、市町関係者、スポーツ団体関係者、学識経験者、競技団体関係者（中央競技団体、県競技団体）、独立行政法人日本スポーツ振興センター等と連携した運営委員会を行うとともに、プログラム部会と選考部会を行う。
- (2) 運営委員会にて、事業の内容及び計画及びタレントの選考等を決定する。
- (3) プログラム部会にて、育成プログラムの内容及び計画等を決定する。
- (4) 選考部会にて、オーディションの実施及びタレントの選考原案の作成を行う。
- (5) 実施競技団体は三重県競技力向上対策本部事務局と連携し、主体的に事業を実施する。

4 年間計画

- 8 月 タレントの募集開始（～ 1 1 月上旬）
- 1 1 月 オーディション実施
- 1 2 月 選考部会、プログラム部会、運営委員会
「年間事業計画の決定」「アスリートタレントの決定」
- 1 月 認定証授与式、修了式
- ※週 2 ～ 3 回程度の専門プログラムの継続実施
- ※年 2 0 コマ程度の教育・育成プログラムの継続実施

トップアスリート応援事業 実施方針

令和 7 年度当初予算【3, 2 4 0 千円】

1 目的

国民スポーツ大会を初めとする全国大会で活躍するという強い意志を持って、三重県内の高等学校に入学した少年選手に対し給付金を支援することで、安定した強化活動を支えることを目的とする。

2 対象

国民スポーツ大会で実施される正式競技に、意欲や熱意をもって取り組むことができるとともに、今後の国民スポーツ大会をはじめとする全国大会や本県における競技スポーツ推進の担い手として貢献することが期待でき、単身で転居をともなつて三重県内の高等学校に入学し、令和 5 年 4 月に本事業で認定した選手。

3 実施内容

給付金の給付

給付金は月額制とし、令和 5 年 4 月から 3 年間給付する。

4 年間計画

4 月 継続給付

3 月 活動報告を確認

報告事項 6－6－2
令和 7 年 3 月 1 7 日
第 2 3 回競技力向上対策委員会決定

令和 7 年度トップアスリート応援事業に係る認定選手

※令和5年度認定、令和7年度までの3年間

No	競技名	選手名	性別	出身県	所属
1	セーリング	岡田 海洋	男	神奈川県	県立津工業高等学校
2	水球（水球）	山崎 唯	男	青森県	県立四日市中央工業高等学校
3	バスケットボール	吉田 陽香	女	福岡県	四日市メリノール学院高等学校
4	バスケットボール	岡本 悠太	男	岡山県	四日市メリノール学院高等学校
5	体操（競技）	竜田 裕奈	女	三重県	暁高等学校
6	ソフトテニス	南 龍之介	男	東京都	三重高等学校
7	剣道	酒匂 健賑	男	大阪府	三重高等学校
8	レスリング	山内 悠妃	女	神奈川県	県立白山高等学校
9	バレーボール	古賀 ひなの	女	大阪府	三重高等学校

チームみえ国スポ選手強化事業 実施方針

令和 7 年度当初予算【1 2 9, 5 0 4 千円】

1 目的

滋賀国スポでの天皇杯順位 1 0 位台前半を獲得するため、活躍が期待できる本県代表選手（チームみえ）に対し、重点的な強化に取り組むことを目的とする。

2 対象

公益財団法人三重県スポーツ協会加盟団体のうち、国民スポーツ大会の正式競技である競技団体とする。

3 実施内容

- (1) 競技団体ヒアリングを基に、戦力、強化計画について総合的に判断し、滋賀国スポにおける競技成績の見込や強化計画等に基づき、強化費を傾斜配分し、競技団体が実施する強化活動を支援する。
- (2) 支援期間は一年間とするが、特に本国スポまでの強化活動を重点的に支援する。
- (3) 各競技団体は、滋賀国スポでの目標が達成できるよう、計画的・戦略的に強化活動を進めることとする。
- (4) 支援する経費は、旅費、宿泊費、消耗品費、使用料及び賃借料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費、全国トップレベルのチームの招聘に係る経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費とする。

4 年間計画

4 月	配分額の通知、交付申請書の提出 実施事業の支援（4 月～本国スポ）
9 ～ 1 0 月	競技成績よる強化活動の検証と青森国スポに向けての 強化計画の作成 実施事業の支援（本国スポ後～3 月）
1 ～ 2 月	次年度の強化計画の作成

女性アスリートサポート事業 実施方針

令和 7 年度当初予算【5 0 0 千円】

1 目的

女性アスリートが競技を継続して取り組めるよう、女性特有の諸課題について女性アスリート、指導者及び保護者など関係者が知識習得や意識向上を図ることで、サポート体制の構築を図ることを目的とする。

2 対象

公益財団法人三重県スポーツ協会加盟団体のうち、国民スポーツ大会の正式競技である競技団体及びその団体に所属する女性アスリート、指導者及び保護者等とする。

3 実施内容

女性アスリート、指導者及び保護者向けの研修会を開催し、女性アスリートが継続して競技に取り組むうえでの不安や悩みの解消に繋がる知識習得や意識向上を図る。

4 年間計画

5 月～ 2 月 女性アスリート、指導者、保護者向けの研修会を 2 回
実施予定

オリンピック等選手強化指定事業 実施方針

令和 7 年度当初予算【2, 0 0 0 千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会等で活躍するトップアスリートを強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、オリンピック及び国民スポーツ大会に向けた選手の競技力向上を推進することを目的とする。

2 対象

オリンピックや国民スポーツ大会における正式競技に取り組んでいる学生※で、オリンピックをはじめとした世界大会や、国民スポーツ大会をはじめとした国内大会で活躍が期待できる選手。

※学生

①中学生②高校生③大学生④大学院生⑤専門学校生⑥高等専門学校生⑦高等専門学校専攻科生

3 実施内容

(1) 強化選手の指定

別途定める「オリンピック等選手強化指定事業 選考要領」に基づき、三重県競技力向上対策本部が強化指定する。

(2) 指定期間

令和 7 年 4 月から令和 8 年 3 月までの単年度指定とする。

追加指定は、指定日から令和 8 年 3 月までの単年度指定とする。

(3) 補助対象

全国・国際スポーツ大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

4 月	指定選手の決定
5 月	指定証交付
8 月	追加指定選手の決定
9 月	追加指定選手の指定証交付
随時	強化活動支援

オリンピック等選手強化指定事業 選考要領

1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「オリンピック等選手強化指定事業」に係る強化指定選手を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

2 選考

(1) 選考方法

三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会で行うものとする。

(2) 選考基準

選考は、「オリンピック等選手強化指定事業 実施方針」の目的及び対象を踏まえることとし、次の基準のいずれかを満たすものとする。

① 継続指定枠

- ア 令和 6 年度に指定を行った選手で、令和 5 年度、令和 6 年度に開催された全日本選手権または国民スポーツ大会において 3 位以上の成績を収めた選手。
- イ 令和 6 年度に指定を行った選手で、令和 5 年度、令和 6 年度に日本代表として中央競技団体から選抜され国際大会[※]に出場した選手。

② 新規指定枠

本県代表選手の一員として、国民スポーツ大会において入賞が見込め、原則以下のいずれかを満たす選手とする。

- ア 令和 6 年度に開催された全日本選手権大会において優勝した選手。
- イ 令和 6 年度または令和 7 年度に日本代表として中央競技団体から選抜され国際大会に出場した選手。

※国際大会

オリンピック、アジア競技大会、世界選手権、アジア選手権、
中央競技団体が代表を選抜するワールドツアー等
ただしトップカテゴリーの代表として選出された者に限る。

報告事項 6-9-3
令和 7 年 3 月 17 日
第 23 回競技力向上対策委員会決定

令和 7 年度オリンピック等選手強化指定事業に係る強化指定選手

	名前	年齢 (学年)	所属	競技名（種目名）	指定枠
1	藤波 朱理	21 (4年)	日本体育大学	レスリング	継続
2	弓矢 健人	21 (4年)	日本体育大学	レスリング	継続
3	神谷 龍之介	20 (3年)	日本体育大学	レスリング	継続
4	岡村 真	19 (2年)	相好体操クラブ (四日市大学)	体操競技	継続
5	島田 綾乃	18 (1年)	立命館大学	水泳競技（A S）	継続

※年齢・学年は令和 7 年 4 月 1 日現在

パラリンピック等選手強化指定事業 実施方針

令和 7 年度当初予算【8, 700 千円】

1 目的

パラリンピック・デフリンピックをはじめとする全国・国際スポーツ大会での活躍を目指して強化活動に取り組んでいる本県の選手を指定し、その活動を支援することで、更なる競技力の向上を図ることを目的とする。

2 対象

出身地・居住地・勤務地のいずれかを示す住所が本県であり、パラリンピック・デフリンピックをはじめとする全国・国際スポーツ大会での活躍が期待される選手。

3 実施内容

(1) 強化選手の指定

別途定める「パラリンピック等選手強化指定事業 選考要領」に基づき、三重県競技力向上対策本部が行う。

(2) 指定期間

指定については、令和 7 年 4 月から令和 8 年 3 月までの単年度指定とする。

(3) 補助対象

全国・国際スポーツ大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費に対する補助を予算の範囲内で補助する。

4 年間計画

- | | |
|-----|-----------|
| 4 月 | 強化指定選手の決定 |
| 5 月 | 指定証交付 |
| 随時 | 強化活動支援 |

パラリンピック等選手強化指定事業 選考要領

1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「パラリンピック等選手強化指定事業」に係る強化指定選手を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

2 選考

(1) 選考方法

三重県競技力向上対策本部事務局が障がい者スポーツ関係団体との協議のうえ、作成した原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会が選考を行うものとする。

(2) 選考基準

選考は、「パラリンピック等選手強化指定事業 実施方針」の目的及び対象を踏まえ、パラリンピック・デフリンピックをはじめとする国際大会での活躍が期待される選手であり、かつ、それぞれの指定基準を満たすものとする。

① S 指定基準

令和 6 年度に日本パラリンピック委員会（以下、J P C）加盟競技団体から強化指定を受けた選手、または、令和 6 年度内に J P C から令和 7 年度の強化指定の内定を受けた選手。

② A 指定基準

以下のア～エのいずれかを満たす選手。

ア J P C 加盟競技団体から令和 6 年度に育成指定等[※]を受けた選手。

イ J P C 加盟競技団体から令和 5 年度に強化指定を受けた選手。

ウ 令和 5 年度、令和 6 年度に日本代表として J P C 加盟競技団体から国際大会に選抜された選手。

エ 令和 5 年度、令和 6 年度に指定実績がある選手のうち、令和 5 年度、令和 6 年度に開催された全国大会において入賞実績がある選手。

※ 育成指定等…強化指定選手の次に上位の区分のみ対象とする。

令和 7 年度パラリンピック等選手強化指定事業に係る強化指定選手

【S 指定・700,000円】

名前	競技（クラス）	種目等	拠点	所属
稲垣 克明	陸上競技 (T63)	100m 走幅跳	県内	住友電装株式会社
前川 楓	陸上競技 (T63)	走幅跳 100m	県外	新日本住設株式会社
井谷 俊介	陸上競技 (T64)	100m 200m	県外	SMBC日興証券株式会社
伊藤 智也	陸上競技 (T52)	100m 400m 1500m	県内	バイエル薬品株式会社
菰方 里菜	テニス	シングルス ダブルス	県外	同志社大学
岡田 和也	射撃	10mエアライフル伏射SH1 50mライフル伏射SH1	県内	サイオネス・ヘルス・コマーシャル株式会社
望月 貴裕	射撃	10mエアライフル伏射SH1 50mライフル伏射SH1	県外	中部電力ミライズ株式会社
渡辺 健太	レスリング	デフレスリング	県内	株式会社若松社寺

【A 指定・500,000円】

名前	競技（クラス）	種目等	拠点	所属
坂倉 航季	水泳 (S14/SB14/SM14)	自由形(100, 200) 個人メドレー(200)	県内	マクセルクレハ株式会社
齋田 悟司	車いすテニス	シングルス	県外	株式会社シグマクシス・ホールディングス
長谷川 勝久	テコンドー	パラキョルギ	県内	県立こころの医療センター
保田 明日美	陸上競技 (T63)	100m 200m 走幅跳 やり投	県内	パナソニックインダストリー株式会社
相澤 稜翔	水泳 (S9/SB9)	平泳ぎ(100m)	県外	東海学院大学（学生）
玉津 徹也	卓球	シングルス ダブルス	県内	日本オラクル株式会社

S 指定	8名	※ 8 名 × 700,000円 = 5,600,000円
A 指定	6名	※ 6 名 × 500,000円 = 3,000,000円
計	14名	8,600,000円

大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業 実施方針

令和7年度当初予算【5,560千円】

1 目的

地域で活動し、三重県を代表するチームとして活躍が期待できる大学運動部、企業・クラブチーム（以下「チーム等」とする。）を指定し、その活動を支援することにより、スポーツ人口の拡大や地域の活性化につなげることを目的とする。

2 対象

国民スポーツ大会（以下「国スポ」という。）の正式競技に取り組むチーム等。

3 実施内容

国スポ、全日本選手権及び日本リーグ等における競技成績の見込みをもとに指定し、その活動を支援する。

(1) 指定方法

指定するチーム等については、後記（3）の候補となる選手が所属する競技団体と協議のうえ、三重県競技力向上対策委員会において決定する。

(2) 指定期間

令和7年4月から令和8年3月までとする。

(3) 指定基準

競技団体が、その競技の中心として位置づけ、国スポや全日本選手権及び日本リーグ等において活躍が期待できるチーム等のうち、次の①及び②に該当するもの。ただし、競技団体そのものがチーム等となる場合を除く。

① 団体競技

国スポの三重県代表チーム（チームみえ）の候補となる選手が、複数名在籍しているチーム等。

② 個人競技

国スポに出場し、入賞が見込まれる選手が、複数名在籍しているチーム等。

(4) 支援内容

指定したチーム等に対する支援については、以下のとおりとする。但し、国スポをはじめとした全日本選手権及び日本リーグ等における競技成績等を鑑み、①のみ支援を行う場合と①②両方の支援を行う場合がある。

① スポーツ人口の拡大や地域の活性化につなげる活動の広報活動に対する協力等

② 強化活動費の支援

※予算の範囲内で行うものとし、支援の対象となる経費は、全国大会での活躍を目的とした活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費、及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費とする。

4 年間計画

4月 指定するチーム等の決定

5月 指定証交付

随時 活動支援

令和 7 年度大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業に係る強化指定チーム

No.	チーム名	種別	競技名（種目名）
1	伊賀 F C くノー三重	女子	サッカー
2	三重クラブ	男子	ホッケー
3	三重クラブ	女子	ホッケー
4	ヴィアティン三重	男子	バレーボール
5	ヴィアティン三重	女子	バレーボール
6	相好体操クラブ	男女	体操（競技）
7	相好トランポリンクラブ	男女	体操（トランポリン）
8	ヴィアティン三重	男子	バスケットボール
9	三重バイオレットアイリス	女子	ハンドボール
10	ヨシザワ	男子	ソフトテニス
11	エクセディ女子卓球部	女子	卓球
12	北勢ライディングファーム	男女	馬術
13	三重ヴェルデウィン	男子	ソフトボール
14	三重県警察	男女	ライフル射撃
15	三重県警察	男子	剣道
16	P E A R L S	女子	ラグビーフットボール

16 チーム

トップアスリート就職支援事業 実施方針

令和 7 年度当初予算【14, 332 千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者（以下、「トップアスリート等」とする。）に対し、県内企業等への就職支援を行い、社業と競技活動の両立を図りやすい環境を整備することで、国民スポーツ大会を初めとする全国大会等で安定した競技力を確保することを目的とする。

2 対象

(1) 対象選手

国民スポーツ大会の正式競技に取り組んでいる選手またはその指導者で、次に掲げる条件を満たし、採用後は「チームみえ」の一員として同大会において入賞もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

国民スポーツ大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会において、個人競技・団体競技ともに 8 位以上の成績を収めた成年選手またはその指導者

※ 本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者については、上記の限りではないこととする。

※ 成績については、高等学校卒業後のものに限ることとする。

(2) 対象企業

県内に本社または事業所を有し、全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリート等を採用する意思のある企業等とする。

3 実施内容

- (1) 就職支援を行ったトップアスリート等が社業と競技活動の両立を図りやすい環境を整備するために、採用企業と調整を行い、課題改善に努める。
- (2) 令和 4 年度以降も安定した競技力を確保するために、成年選手強化に係る取組を県内企業に説明し、トップアスリート等の採用依頼を行う。
- (3) 求人・求職に係る情報の管理を行う。
- (4) 競技団体から推薦のあったトップアスリート等に対し、書類審査を行う。
- (5) 社業と競技活動の両立が図られるよう、トップアスリート等に対し、面談を行う。
- (6) 企業及びトップアスリート等に有益なマッチングが図られるよう、調整を行う。
- (7) 企業及びトップアスリート等に推薦者・推薦企業の打診を行う。
- (8) 採用選考の調整を行う。
- (9) トップアスリート等が培ってきた知識や経験を発揮するとともに、競技活動にも集中して取り組めるよう、企業に対し、フォローアップを行う。

4 年間計画

4 月以降、随時、実施内容の取組を進めることとする。

スポーツ指導員配置事業 実施方針

令和 7 年度当初予算【59,929 千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者（以下、「トップアスリート等」とする。）を競技団体が実施する強化練習や合宿に派遣することで、本県選手の競技力向上を図ること、また、トップアスリート等として成年種別の競技得点を獲得することを目的とする。

2 対象

国民スポーツ大会の正式競技に取り組んでいるトップアスリート等で、次に掲げる条件を満たし、採用後は「チームみえ」の一員として国民スポーツ大会において入賞もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

国民スポーツ大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会において、個人競技は 3 位以上、団体競技は 8 位以上の成績を収めた成年選手またはその指導者

※ 本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者については、上記の限りではないこととする。

※ 選手としての成績については、高等学校卒業後のものとする。但し、高校卒業時に採用する場合はこの限りではない。

3 実施内容

- (1) スポーツ指導員の採用については、三重県競技力向上対策本部と公益財団法人三重県スポーツ協会が協議を行ったうえで決定する。
- (2) 公益財団法人三重県スポーツ協会は、スポーツ指導員の勤務管理を行うとともに、本県選手の競技力向上を図るため、スポーツ指導員を競技団体が実施する強化練習や合宿に派遣する。
- (3) スポーツ指導員の活動に係る旅費については、予算の範囲内で支出する。

4 年間計画

- | | |
|------|----------------------|
| 4 月 | 協定書の締結 |
| 4 月～ | 競技団体が実施する強化練習や合宿等に派遣 |

チームみえトップ指導者養成事業 実施方針

令和 7 年度当初予算【15,047 千円】

1 目的

- (1) 今後の国民スポーツ大会等において安定的な競技力を確保するために、各年齢カテゴリー（以下、「各カテゴリー」とする。）におけるトップ指導者の養成を図るとともに、その指導を多面的に支える指導体制の構築を図る。
- (2) 各カテゴリーを超えた指導者が幅広く交流することで、チームみえとしての一体感を醸成するとともに、一貫的な指導体系を構築し、日本一を目指す指導力と資質の向上を図る。
- (3) 日本を代表するトップアスリートを輩出することで三重県のスポーツ推進を図る。

2 対象

各競技団体からスタートアップコース（4 期生）受講生として推薦のあった者について、三重県競技力向上対策委員会が選考・決定する。

なお、決定にあたっては、以下の条件を満たす者とする。

- (1) 国民スポーツ大会の正式競技の指導者で、令和 6 年 4 月から令和 8 年 3 月まで、2 年間継続受講が可能な者。
- (2) 各競技団体から各カテゴリーの中心的な役割を担う指導者として位置付けられた者のうち、以下の①～③のいずれかに当てはまる者。
 - ① 三重県の競技力の向上において、各カテゴリーの県代表または県選抜チームの中心的な役割を担う主たる指導者。
 - ② 優れた競技実績を有するトップアスリートで競技生活の終了に伴い、今後、三重県の競技力の向上において、指導者として活躍が見込まれる者。
 - ③ 各強化指定チームの主たる指導者で、各競技団体の競技力の向上において中心的役割を担う者。

3 実施内容

(1) 指導者養成講座

スタートアップコース（4 期生）

- ・今後の三重県スポーツの未来へ向けた多角的なテーマでの記念講演。
- ・国内トップクラスの講師を招聘した研修（コーチング論、医・科学サポート、情報戦略等）。
- ・令和 4 年度から 5 年度にかけて本事業で養成したコーチデベロッパー（以

下、コーチデベロッパー）を招聘した研修（コーチング論、医・科学サポート、情報戦略等）。

- ・各種全国大会およびジュニア育成等に向けた各競技団体における指導体制等の分析や強化戦略の課題に対する指導助言（カンファレンス）。
- ・県内外指導者の運動観察・指導実践。
- ・ICTでのディスカッション及び有識者、コーチデベロッパーによる指導助言、相談窓口。

(2) マルチサポートシステム

- ・指導体制上の課題解決に向けた様々なサポートの実施と検証。

(3) コーチングコミュニティ

- ・チームみえの一体感を継続するため、コーチデベロッパーを中心に最新情報等の相互発信と共有。
- ・マガジンの発行及びSNSを活用し、本事業ディレクターから最新情報提供及び受講生の現況報告や取組の情報共有。

4 年間計画

4月	プレミーティング（オリエンテーション）
6月	指導者養成講座Ⅰ
12月	指導者養成講座Ⅱ
3月	指導者養成講座Ⅲ
通年	運動観察・指導実践研修、ホームワークによるカンファレンス

令和7年度 チームみえトップ指導者養成事業

【4期生】22名

番 号	競 技	所 属	氏 名
1	陸上競技	県立伊勢高等学校	中村 隆代
2	水泳（競泳）	大紀町役場	中井 克樹
3	水泳（水球）	県立飯野高等学校	中川 恭輔
4	サッカー	ヴィアティン三重	西山 芽衣
5	テニス	県立四日市商業高等学校	田根 諭
6	ローイング	県立昴学園高等学校	春名 祐希
7	ホッケー	県立名張青峰高等学校	森 優里香
8	ボクシング	県立久居農林高等高校	山本 拳
9	バレーボール(ビーチバレーボール)	IXホールディングス株式会社	浮田 美里
10	体操（競技）	暁中学校・高等学校	石原 大
11	体操(トランポリン)	相好トランポリンクラブ	植田 太郎
12	体操（新体操）	高田高等学校	堀 孝輔
13	レスリング	県立四日市四郷高等学校	森 保弘
14	ソフトテニス	松阪市立東部中学校	橋本 旭陽
15	卓球	NXキャッシュ・ロジスティクス株式会社	薄井 智彦
16	馬術	鈴鹿市馬術協会	坂野 誠
17	ソフトボール	鈴鹿高等学校	濱田 早紀
18	柔道	県立名張高等学校	莊司 和大
19	バドミントン	皇學館高等学校	槇野 貴行
20	弓道	県立菰野高等学校	藤原 瑞穂
21	ラグビーフットボール	鈴鹿高等学校	三輪 達哉
22	トライアスロン	株式会社朝日金属	大山 陽一郎

令和 7 年度 チームみえトップ指導者養成事業

【コーチデベロッパー】 22 名

番 号	競 技	所 属	氏 名	受 講
1	水泳（競泳）	神戸高等学校	山鹿 友昭	1・2 期生
2	水泳（飛込）	飯野高等学校	池田 庸祐	1・2 期生
3	サッカー	四日市西高等学校	城 利英	1・2 期生
4	テニス	四日市工業高等学校	金山 敦思	1・2 期生
5	ボクシング	久居高等学校	片山 太一郎	1・2 期生
6	バレーボール	松阪工業高等学校	橋本 雅司	1・2 期生
7	バスケットボール	四日市商業高等学校	伊藤 将伸	1・2 期生
8	セーリング	津工業高等学校	伊藤 秀郎	1・2 期生
9	ウエイトリフティング	亀山高等学校	石井 伸子	1・2 期生
10	ハンドボール	四日市工業高等学校	織田 洋輔	1・2 期生
11	ハンドボール	四日市商業高等学校	蛭川 健司	1・2 期生
12	自転車	久居農林高等学校	松本 諒太	1・2 期生
13	ソフトテニス	三重高等学校	玉川 裕司	1・2 期生
14	卓球	白子高等学校	森 雅幸	1・2 期生
15	卓球	白子高等学校	村上 悠馬	1・2 期生
16	相撲	宇治山田商業高等学校	下里 匡希	1・2 期生
17	フェンシング	津東高等学校	松本 優	1・2 期生
18	柔道	名張高等学校	稲澤 真人	1・2 期生
19	ラグビーフットボール	朝明高等学校	保地 直人	1・2 期生
20	アーチェリー	四日市四郷高等学校	久野 圭太	1・2 期生
21	体操	相好体操クラブ	外村 和才	3 期生
22	スポーツクライミング	株式会社 LIXIL	小林 春彦	3 期生

競技用具等整備事業 実施方針

令和 7 年度当初予算【1, 000 千円】

1 目的

国民スポーツ大会や全国大会等において安定した競技力を確保するため、強化活動に必要な競技用具等を整備することを目的とする。

2 対象

(1) 整備対象競技

本事業により、競技用具等を整備する競技は、国民スポーツ大会における正式競技とする。

(2) 整備対象競技用具等

- ①競技力向上に必要と認められるもの。
- ②選手が大会等で直接的に使用するもの。
- ③高額等の理由により、個人や競技団体に整備することが困難なもの。
- ④既存の競技用具等が、規格外、老朽化、性能不足等の理由により、改めて整備する必要があるもの。

3 実施内容

- (1) 前出要件を満たす競技用具等の整備を希望する競技団体は県に申請を行う。
- (2) 県は競技特性、用具の特殊性、見積価格、ヒアリングの内容、現地調査を総合的に精査し、選定委員会において適当と認められた競技用具等を購入する。
- (3) 競技団体に対して県が購入した競技用具等を貸し付ける。
- (4) 貸し付けした競技用具等について、競技団体は責任を持って管理するとともに、引渡し、維持、修繕及び返納に要する費用を原則負担する。

令和7年度暫定予算(専決処分)

(令和7年4月1日～6月24日)

1 収 入

(単位:千円)

科 目	令和7年度 当初予算案	暫定予算	備 考
負 担 金	235,606	125,655	三重県負担金
計	235,606	125,655	

2 支 出

(単位:千円)

科 目		令和7年度 当初予算案	暫定予算	備 考
事業費	チームみえジュニア育成事業	37,244	14,488	4月1日付けで県スポーツ協会と委託契約
	高等学校運動部強化指定事業	13,154	13,154	4月1日付けで県高等学校体育連盟と委託契約
	チームみえスーパージュニア強化指定事業	6,000	0	6月24日までの支出見込額
	三重県アスリートタレント発掘・育成事業	12,841	116	6月24日までの教育・育成プログラム経費等
	トップアスリート応援事業	3,240	480	6月24日までの給付見込額
	チームみえ国スポ選手強化事業	129,504	95,963	4月1日付けで県スポーツ協会と委託契約
	パラリンピック等選手強化指定事業	8,700	0	6月24日までの支出見込額
	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	5,560	573	6月24日までの支出見込額
	オリンピック等選手強化指定事業	2,000	224	6月24日までの支出見込額
	チームみえトップ指導者養成事業	15,047	46	研修等に係る経費 6月24日までのマルチサポート執行見込額
	会議費	2,294	611	対策本部会議等に要する経費
事 務 局 費		22	0	
計		235,606	125,655	

審 議 事 項

意見交換

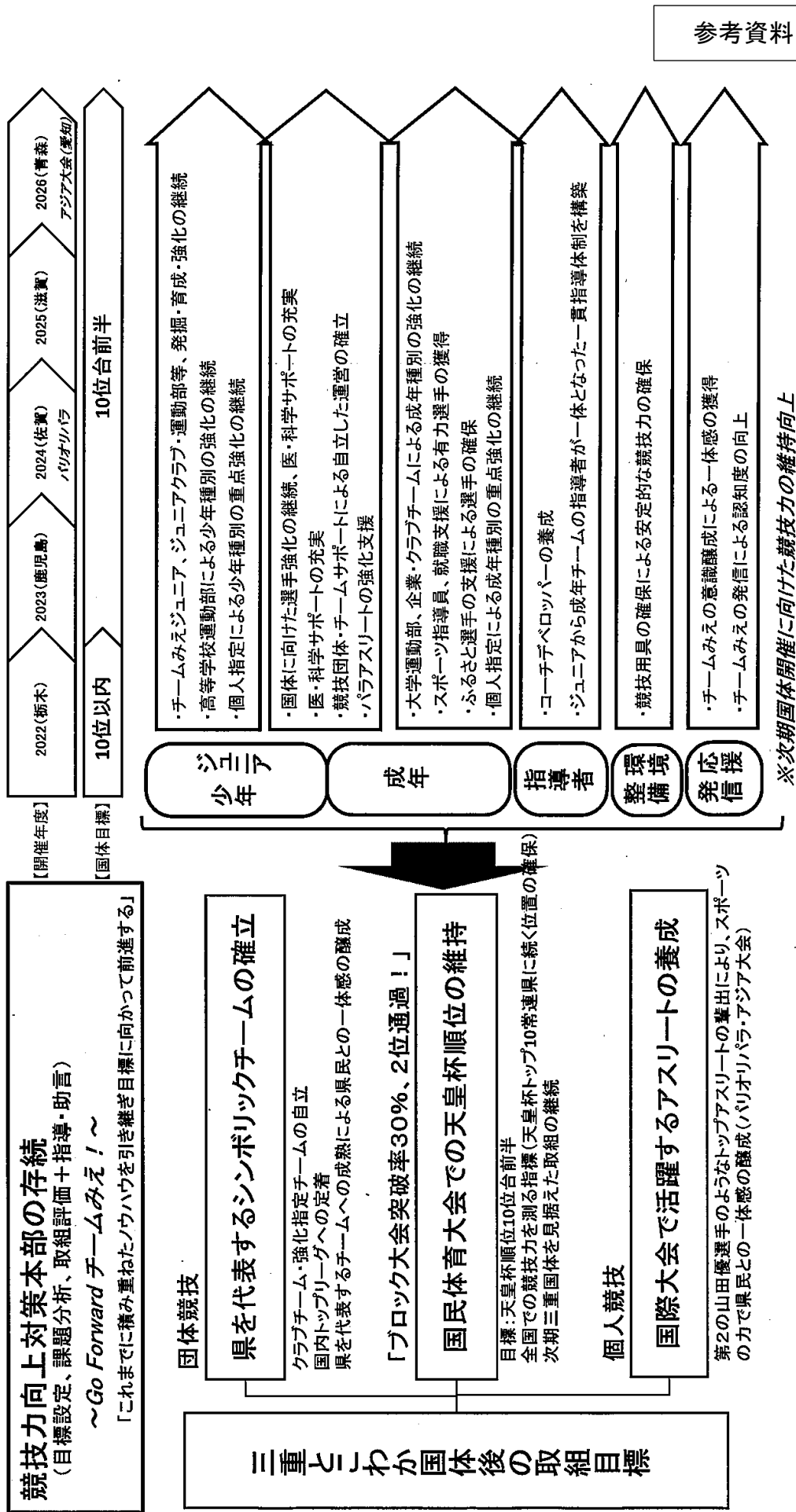
「三重県の競技力の推進について」

「三重県におけるジュニア・少年選手の育成について」

そ の 他

(情報共有事項 他)

三重県競技力向上対策本部の継続と今後の競技力向上に係る取組方針



参考資料 2

抜粋

第3次三重県スポーツ推進計画

令和5（2023）年度～令和8（2026）年度

スポーツを通じて「人」「地域」を結ぶみえ

～スポーツを「楽しむ」 三重の環^わ～

令和5（2023）年3月

三重県

第4章 計画の基本方針

1 計画のめざす姿

スポーツを通じて「人」「地域」を結ぶみえ ～スポーツを「楽しむ」 三重の環^わ～

昨今、人口減少・少子高齢化の進展や新型コロナウイルス感染症の拡大など、スポーツを取り巻く環境は大きく変化しており、国際的に見てもSDGsへの貢献など、持続可能な社会や共生社会の実現に向け、スポーツの持つ力を活用した取組が求められています。

また、県民の皆さんの健康志向は高まっており、幼少期から高齢期まで一生涯スポーツにふれ親しむ機会が求められていること、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、誰もがともにスポーツに取り組むことが求められていることから、地域の絆づくりにおいて、一体感の醸成などスポーツの持つ力に期待が寄せられています。

このような中、すべての県民の皆さんがスポーツの価値を広く享受し、一人ひとりがふるさと三重に愛着と誇りを持ち、豊かで充実した生活を送ることができる社会づくりが必要です。「第3次三重県スポーツ推進計画」では、県民の皆さんがスポーツを楽しみ、スポーツとともに人生を歩みつつ、スポーツを通じて「人と人」「人と地域」「地域と地域」の絆を深める取組を進めます。

2 推進施策の方向性

【推進施策1】

スポーツにふれ親しむ環境づくり ～いつまでも「楽しむ」～

県民の皆さんが、スポーツによる「楽しさ」を享受できるよう、生涯にわたって運動・スポーツにふれ親しむ環境づくりを進めます。スポーツを「つくる／はぐくむ」「誰もがアクセスできる」の視点から、社会情勢や個々人の置かれた状況に応じた取組を進めます。また、障がい者スポーツの裾野の拡大を進め、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツに参加できる環境づくりを進めます。

【推進施策2】

スポーツを通じた自己実現と感動体験 ～挑戦し「楽しむ」～

スポーツを「つくる／はぐくむ」「誰もがアクセスできる」の視点から、アスリートをめざす皆さんの強化活動を支援することで、競技スポーツの推進を図ります。また、三重県ゆかりの選手・チームの活躍を通じて、県民の皆さんに夢や感動を届け、県民の郷土への愛着や誇りを高めます。

【推進施策3】

スポーツを通じた地域活性化と共生社会の実現 ～誰もが「楽しむ」～

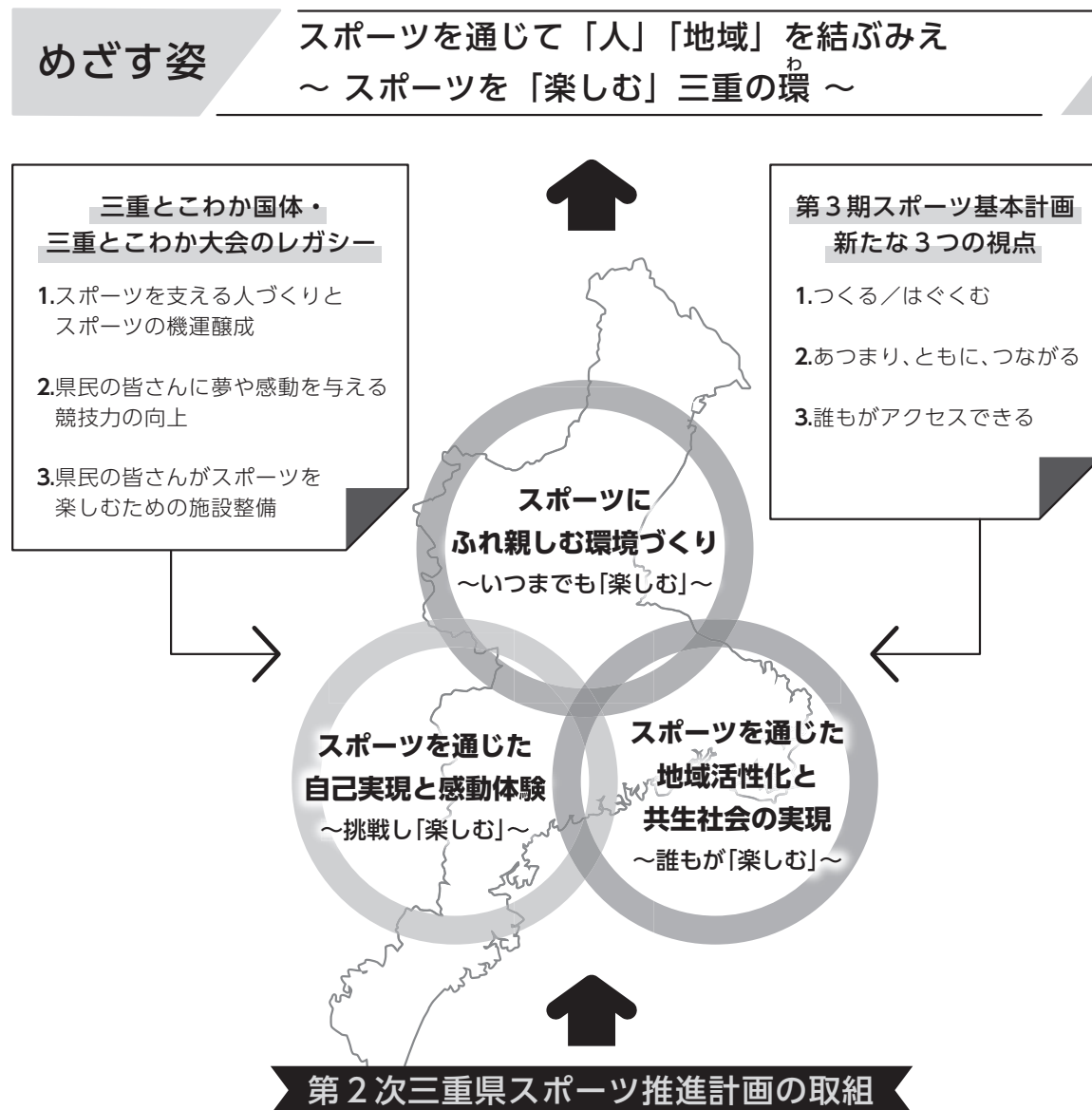
スポーツの持つ力で人や地域の交流を促すとともに、県営スポーツ施設の計画的な整備を進め、地域の活性化につなげていきます。また、障がいの有無、国籍・文化的背景や性的指向・性自認などにかかわらず、多様な主体が「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」の視点から、安心してスポーツを楽しめる環境づくりを進めることで、共生社会の実現につなげていきます。

【推進施策と新たな3つの視点の関係】

推進施策	取組名	新たな3つの視点		
		つくる／はぐくむ	あつまり、ともに、つながる	誰もがアクセスできる
1 スポーツにふれ親しむ環境づくり ～いつまでも「楽しむ」～	(1)子どもたちが運動・スポーツに親しむための取組の拡充	○		
	(2)これからの学校スポーツと地域連携・地域移行	○		○
	(3)生涯を通じたスポーツ機会の充実と健康づくりの推進	○		
	(4)障がい者スポーツの裾野の拡大		○	
	(5)地域スポーツの担い手の養成・資質向上	○		○
2 スポーツを通じた自己実現と感動体験 ～挑戦し「楽しむ」～	(1)未来を拓くジュニアアスリートの発掘・育成			○
	(2)選手の可能性を引き出す優れた指導者の養成・資質向上	○		○
	(3)三重県を代表するチームの強化支援		○	○
	(4)県民に夢や感動を与えるトップアスリートの育成・強化支援			○
	(5)国際大会や全国大会で活躍をめざすパラアスリートの強化支援			○
3 スポーツを通じた地域活性化と共生社会の実現 ～誰もが「楽しむ」～	(1)三重とこわか国体・三重とこわか大会のレガシー継承・発展	○	○	○
	(2)安全・快適なスポーツ環境の提供		○	○
	(3)スポーツを通じた交流やスポーツツーリズムの促進		○	○
	(4)スポーツを通じた共生社会の実現	○	○	○

※表中の「○」印は、各推進施策の取組において特に関わりが深い「新たな3つの視点」を示しています。

【推進施策の取組イメージ】



【推進施策2】

スポーツを通じた自己実現と感動体験 ～挑戦し「楽しむ」～

競技スポーツは、人間の可能性の極限を追求し挑戦することで、自己実現や一人ひとりの豊かな人生の形成に寄与します。

目標を持ってスポーツに取り組む（「する」）ことは、自立心や精神の涵養につながり、努力を重ねて勝つ「喜び」やスポーツの「楽しさ」を得ることができます。また、勝敗にかかわらず相手を称える気持ちを養うことは、心身の健やかな成長にも寄与するものです。さらに、「みる」「支える」人びとに感動を与え、スポーツを「楽しむ」といった側面があります。

本県では、平成25（2013）年に三重県競技力向上対策本部を設置し、令和3（2021）年に開催予定であった三重とこわか国体（第76回国民体育大会）をはじめ、国内外の数々の大会で活躍できる三重県選手・チームの育成・強化に取り組んできました。

令和3（2021）年夏に開催された東京2020オリンピック競技大会には過去最多19名の三重県ゆかりの選手が出場し、金メダリストを輩出しました。また、令和4（2022）年のいちご一会とちぎ国体（第77回国民体育大会）では男女総合成績12位となり、昭和50（1975）年開催の三重国体の優勝、さらにその翌年の9位に次ぐ3番目の好成績を収めました。




『推進施策2』では、スポーツを「つくる／はぐくむ」「誰もがアクセスできる」の視点から、アスリートをめざす皆さんの強化活動を支援することで、競技スポーツの推進を図ります。また、三重県ゆかりの選手・チームの活躍を通じて、県民の皆さんに夢や感動を届け、県民の郷土への愛着や誇りを高めます。

- ・選手の将来を見据えた長期的な視点から、次世代を担うジュニアアスリートの発掘・育成や優れた指導者の養成・資質向上に取り組めます。
- ・三重とこわか国体に向けて培った競技力向上のノウハウを生かし、三重県ゆかりのトップアスリート、パラアスリート、チームの強化活動を支援します。

<取組内容>

- (1) 未来を拓くジュニアアスリートの発掘・育成
- (2) 選手の可能性を引き出す優れた指導者の養成・資質向上
- (3) 三重県を代表するチームの強化支援
- (4) 県民に夢や感動を与えるトップアスリートの育成・強化支援
- (5) 国際大会や全国大会で活躍をめざすパラアスリートの強化支援

【SDGsへの貢献】

	目標	スポーツの貢献
	すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	小中学校・高等学校・高等教育機関において、公平で質の高い体育・スポーツ教育を受けることは、一生涯の健全なライフスタイルの確立につながります
	ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る	女性のスポーツ参画に取り組むことは、ジェンダー平等の実現に寄与します
	国内および国家間の不平等を是正する	スポーツは世界共通の文化であり、国内外の地域間格差など不平等の解消に役立ちます

（１）未来を拓くジュニアアスリートの発掘・育成

【現状・課題】

- ・将来を担うジュニア選手（小中学生）については、競技人口の少ない競技の選手の発掘・育成、ジュニアクラブ・高等学校運動部の強化指定による拠点化、選手の将来を見据えた一貫指導体制の構築など、長期的な視点での支援が必要です。

【取組の方向性】

- ・競技人口の少ない競技については、将来、国民体育大会やオリンピック等で活躍が期待される優れた資質を有するジュニア選手の発掘・育成を行います。
- ・ジュニアクラブ・高等学校運動部を指定し、国民体育大会等で少年種別の中心となる選手の育成・強化を支援します。
- ・全国大会等で活躍が期待されるジュニア選手を「チームみえジュニア」として指定し、強化活動を支援します。
- ・選手の将来を見据えた長期的な観点から指導者を育成し、少年期から成年期までの一貫した指導体制を構築します。

【具体的な取組内容】

- ・小中学生を対象とするスポーツ体験会などを通じて、優れた資質を有し、国民体育大会やオリンピック等で中心となる次世代の選手を発掘します。
- ・国民体育大会等で活躍が期待されるジュニア選手やジュニアクラブ等を指定し、強化活動を支援します。
- ・国民体育大会等で活躍するトップアスリートの育成をめざし、育成・強化の中心となる高等学校運動部を指定し、強化活動を支援します。
- ・少年期から成年期までの幅広い年齢層に応じて適切な指導ができる優れた指導者を養成し、一貫した指導体制を構築します。



タレント発掘プロジェクト
（女子ラグビー）



国民体育大会で活躍するジュニア選手
（ウエイトリフティング）

【K P I（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
全国大会の入賞数	70件	165件	国民体育大会、全国高等学校総合体育大会、全国中学校体育大会における、団体・個人の入賞数

<選定理由>

- ・ジュニア・少年選手から成年選手まで幅広い年齢層における本県の競技力向上対策の取組の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・幅広い年齢層において安定した競技力を確保する観点から、165件と設定しました。

(2) 選手の可能性を引き出す優れた指導者の養成・資質向上

【現状・課題】

- ・三重とこわか国体ののちも安定した競技力を確保するため、ジュニア選手から成年選手まで、幅広い年齢層に応じた指導ができる指導者を養成するとともに、一貫的な指導体制の構築を図っています。さらに、指導者を育成する指導者「コーチデベロッパー」の養成に取り組んでいます。
- ・将来を見据え、長期的な視点で選手の競技力を向上させるには、幅広い年齢層に応じた適切な指導ができる優れた指導者の養成・資質向上・拡充を図る必要があります。
- ・少年期から成年期までの一貫した指導体制づくりが不可欠です。

【取組の方向性】

- ・県内指導者の資質向上を図るための研修を行うことで、指導者の拡充、一貫的な指導体制の構築を図ります。

【具体的な取組内容】

- ・日本一をめざす指導力の獲得と資質向上を図るため、チームみえ・コーチアカデミーセンター事業において国内トップクラスの講師を招へいし、コーチング論や医・科学サポートなど科学的根拠に基づいた指導法や、指導者のスポーツ・インテグリティの確保などに関する研修を行います。
- ・競技力向上の中心的役割を担い、今後の本県の指導者を育成する者としてコーチデベロッパーを養成し、優れた指導者の拡充を図ります。
- ・指導者が各カテゴリーを超えて交流することでチームみえの一体感を醸成し、一貫的な指導体制を構築します。



チームみえ・コーチアカデミー
(3期生・スタートアップミーティング)



チームみえ・コーチアカデミー
(アカデミーⅠ・Ⅱ・Ⅲ)

【K P I（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
新たな指導者の拡充	39人	80人	「チームみえ・コーチアカデミーセンター事業」を受講し、新たに指導者となった人数（累計）

<選定理由>

- ・チームみえ・コーチアカデミーセンター事業の取組による指導者養成の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・安定した競技力を確保する観点から、今後の受講者（養成者）数を見込み、設定しました。

（３）三重県を代表するチームの強化支援

【現状・課題】

- ・成年選手の重点的な競技力向上を図るため、本県を代表するチームとして全国での活躍が期待できるチームを指定し、支援しています。
- ・競技団体やクラブチームによっては、運営基盤が弱く、組織の持続的な運営に課題を抱えている場合があります。組織力や経営力を高め、体制強化を図るため、運営に課題を抱える競技団体やクラブチームを支援しています。

【取組の方向性】

- ・全国での活躍が期待できるチームを指定し強化活動を支援することで、本県選手の競技力向上を図ります。
- ・持続的な運営が可能となるよう、専門性を有するアドバイザーを派遣することで、競技団体やクラブチームの体制強化を図ります。

【具体的な取組内容】

- ・大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業により、国民体育大会等での活躍が期待される本県を代表するチームを指定し、強化活動に要する経費を支援することで、重点的に成年選手の競技力向上を図ります。
- ・成年種別の中心として強化指定したチームのうち、運営や経営に関する課題を抱える競技団体やクラブチームに対し、専門的な知識やノウハウを持ったアドバイザーを派遣し、体制の強化を図ります。

【K P I（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
全国大会の入賞数	- (中止)	105件	国民体育大会における、団体・個人の入賞数

<選定理由>

- ・成年選手における本県の競技力向上対策の取組の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・成年選手において安定した競技力を確保する観点から、105件と設定しました。

（４）県民に夢や感動を与えるトップアスリートの育成・強化支援

【現状・課題】

- ・選手やチーム、競技団体が行う強化活動への支援や、企業関係団体等と連携したトップアスリート・指導者の県内定着などに取り組んでいます。
- ・これまで積み重ねてきた競技力向上のノウハウを生かした選手・チームへの支援が必要です。
- ・三重とこわか国体が中止となったものの、引き続き、国民体育大会での男女総合成績10位台前半を維持するため、選手・チームの安定的な競技力の確保が必要です。

【取組の方向性】

- ・選手・チームの課題を把握し、実力を引き上げられるよう、競技団体や本県を代表するチーム等の強化活動を支援します。
- ・選手が大会で実力を発揮できるよう、医・科学の専門スタッフを競技団体等に配置するなどの支援を行います。
- ・女性アスリート特有の諸課題に関する研修を実施し、知識習得・意識向上を図ります。
- ・企業関係団体等と連携した就職支援により、トップアスリート・指導者の県内定着を図ります。

【具体的な取組内容】

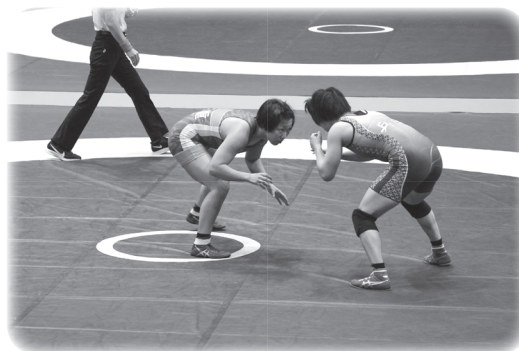
- ・国民体育大会で活躍が期待される代表選手（チームみえ）やオリンピック等の国際大会で活躍が期待される選手が行う強化活動を支援するとともに、選手が実力どおりのパフォーマンスを発揮できるよう医・科学の専門スタッフを派遣するなどの支援を行います。
- ・スポーツ・インテグリティの確保に向け、関係団体と連携し、ドーピングの禁止やハラスメントの防止などの注意喚起を図ります。
- ・女性アスリートが継続して競技に取り組むことができるよう、研修を通じて女性特有の諸課題に関する知識の習得や意識向上を図ります。
- ・安定した競技力を維持できるよう、全国大会や国際大会で活躍するトップアスリートや指導者に対し、県内企業等と連携して就職支援を行い、県内への定着を図ります。



国民体育大会で活躍する三重県選手
(フェンシング)



国民体育大会で活躍する三重県選手
(トライアスロン)



国民体育大会で活躍する三重県選手
(レスリング)

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
国民体育大会の 男女総合成績	- (中止)	10位台前半	国民体育大会における正式競技の参加 点（ブロック大会を含む）と冬季大会 及び本大会の競技得点の合計による都 道府県ごとの男女総合順位

<選定理由>

- ・三重とわか国体ののちも安定的な競技力を確保することをめざしており、各県の競技力を示す指標であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・三重とわか国体ののちも安定した競技力を確保する観点から、（大都市圏などの常連県に次ぐ位置として）10位台前半と設定しました。

（５）国際大会や全国大会で活躍をめざすパラアスリートの強化支援

【現状・課題】

- ・競技力向上を図るため、パラリンピック等の国際大会や全国大会で活躍が期待される一定の競技力を有する選手を指定し、強化活動を支援しています。
- ・競技によっては、パラスポーツを専門とするコーチや、同じレベルの練習パートナーが県内に不足しており、活動拠点を県外や海外に求めざるを得ない場合があります。
- ・競技用具の機能や調整具合が勝敗を分けることがあり、個々の競技の特性をふまえたきめ細かな支援が必要です。

【取組の方向性】

- ・一定の競技力を有する選手に対し、強化活動の支援を行います。
- ・選手に応じたきめ細かな支援を行うため、選手一人ひとりの状況把握に努め、求められる支援のためのノウハウや経験を蓄積します。

【具体的な取組内容】

- ・パラリンピック等の国際大会や全国大会での活躍をめざして強化活動に取り組む本県選手のうち、国際大会や全国大会で入賞するなど一定の実績（競技力）を有し、パラリンピック等での活躍が期待される選手を指定し、遠征費や大会参加料、競技用具の購入、医・科学スタッフの派遣など、強化活動を支援します。
- ・強化支援による成果や選手それぞれが求める支援について、選手に聴取りを行い、さらなる支援の充実を図ります。



日本選手権で活躍する三重県選手
（陸上競技）

【K P I（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
パラアスリートの 全国大会の入賞数	35件	41件	ジャパンパラ競技大会、日本選手権に おける、団体・個人の入賞数

<選定理由>

- ・パラアスリートにおける本県の競技力向上対策の取組の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・東京2020パラリンピック競技大会及び三重とわか大会に向け高まった、県内選手の競技力を維持・向上させるため、平成30(2018)年度から令和3(2021)年度まで(令和2(2020)年度を除く)の入賞数実績の平均値等を参考に、令和8(2026)年度の目標値を41件と設定しました。

